

AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド

コンフィグレーション収集ツール編

第 2 0 版

■対象製品

このマニュアルの対象製品は AX-Networker's-Utility (コンフィグレーション収集ツール Version 3.7)です。

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標一覧

IPX は、Novell,Inc.の商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Subversion は、The Apache Software Foundation の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル Core は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ご注意

このマニュアルの内容については、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■発行

2019年 3月 (第20版)

■著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2008, 2019, ALAXALA Networks, Corp.

変更内容

【Ver. 3.7】

表 変更履歴

章・節・項・タイトル	追加・変更内容
1.3 利用環境	表 1-1 装置側環境で, 対象ソフトウェアバージョンを更新しました。 表 1-2 コンフィグレーション収集サーバ側環境で, 以下を更新しました： ・推奨 OS で以下を変更 32bit 版 Windows 10 Pro (x86) Version 1709 を削除 64bit 版 Windows 10 Pro (x64) Version 1709 を削除 32bit 版 Windows 10 Pro (x86) Version 1809 を追加 64bit 版 Windows 10 Pro (x64) Version 1809 を追加 ・Java 実行環境で Java9 を削除し, Java 11 を追加 ・動作確認済み Java 実行環境を更新

なお, 単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

■対象製品およびツールバージョン

このマニュアルは AX-Networker's-Utility (コンフィグレーション収集ツール) を対象に記載しています。また、ツールバージョン Ver. 3.7 の機能について記載しています。操作を行う前にこのマニュアルをよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。また、このマニュアルは必要なときにすぐ参照できるような使いやすい場所に保管してください。

■対象読者

本製品を利用したネットワークシステムを構築し、運用するシステム管理者の方を対象としています。また、次に示す知識を理解していることを前提としています。

- ネットワークシステム管理の基礎的な知識
- 装置に関する基礎的な知識

■このマニュアルの URL

このマニュアルの内容は下記 URL に掲載しております。

<http://www.alaxala.com/>

■このマニュアルでの表記

略語を以下に示します。

API	Application Programming Interface
AXCM	Alaxala Config Master (AX-Config-Master)
CA	Certificate Authority
CLI	Command Line Interface
CSV	Comma Separated Values
DB	Data Base
GUI	Graphical User Interface
HTTP	HyperText Transfer Protocol
ID	Identifier
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol version 4
IPv6	Internet Protocol version 6
IPX	Internetwork Packet Exchange
JRE	Java SE Runtime Environment
L2	Layer 2
L3	Layer 3
LAN	Local Area Network
LLDP	Link Layer Discovery Protocol
MAC	Media Access Control
OAN	Open Autonomic Networking
ON	Open Networking
PC	Personal Computer
SDK	Software Development Kit
SFP	Small Form factor Pluggable
SMTF	Simple Mail Transfer Protocol

SQL	Structured Query Language
SSL	Secure Socket Layer
TCP	Transmission Control Protocol
TLS	Transport Layer Security
VLAN	Virtual LAN
VRF	Virtual Routing and Forwarding
XFP	10 gigabit small Form factor Pluggable
XML	Extensible Markup Language

製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
Java SE Runtime Environment	Java
Java SE Development Kit	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Operating System	Windows Server 2008 R2 または Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Operating System	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard Operating System	Windows Server 2012 R2 または Windows
Microsoft® Windows® 7 Professional	
Microsoft® Windows® 7 Enterprise	Windows 7 または Windows
Microsoft® Windows® 7 Ultimate	
Microsoft® Windows® 8.1 Pro	Windows 8.1 または Windows
Microsoft® Windows® 8.1 Enterprise	
Microsoft® Windows® 10 Pro	Windows 10 または Windows
Service Pack	
	SP

■KB(バイト)等の単位表記について

1KB(キロバイト), 1MB(メガバイト), 1GB(ギガバイト), 1TB(テラバイト)はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024×1,024 バイト, 1,024×1,024×1,024 バイト, 1,024×1,024×1,024×1,024 バイトです。

■このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について説明します。

記号	説明
[] (角括弧)	メニュー名, 画面名, またはフィールド名を表します。 メニュー名を表す場合は, 上位メニューから下位メニューへとメニューが階層化されていて, 下位のメニューを示す場合は, 上位と下位のメニュー名の間をハイフンでつないで表記します。 例: [ファイル] - [終了] 画面名を表す場合は, 角括弧内に画面名を表記します。 例: [IP アドレスの入力] 画面 フィールド名を表す場合は, 角括弧内にフィールド名を表記します。 例: [IP アドレス] 欄
[] (きつ甲)	ダイアログボックス内のボタン名を表します。 ダイアログボックス内のボタン名は, 括弧内にそのボタンのラベル名を表記します。 例: [終了] ボタン

目次

1. はじめに	1
1.1 こんなことができます	2
1.2 収容条件	14
1.3 利用環境	15
1.4 注意事項	17
2. 準備	20
2.1 コンフィグレーション収集ツールのインストール	21
2.2 装置の設定を行う	23
2.3 コンフィグレーション収集サーバの設定を行う	24
3. コンフィグレーションファイルの収集	27
3.1 装置を登録する	28
3.2 装置のコンフィグレーションファイルを収集する	45
3.3 タグ名を付けてコンフィグレーションファイルを保存する	59
3.4 コンフィグレーションを反映する	61
4. ツールの設定ファイル	67
4.1 設定ファイル	68
4.2 設定項目一覧	69
5. トラブルシューティング	75
5.1 トラブル発生時の対応	76
5.2 メッセージ一覧	80
5.3 ログファイル	102

1. はじめに

この章では、コンフィグレーション収集ツールの概要について説明します。

[1.1 こんなことができます](#)

[1.2 収容条件](#)

[1.3 利用環境](#)

[1.4 注意事項](#)

1.1 こんなことができます

AX-Networker's-Utility（コンフィグレーション収集ツール）は、ネットワーク上に存在する装置のコンフィグレーションをコンフィグレーション収集サーバへ集中的に収集できます。

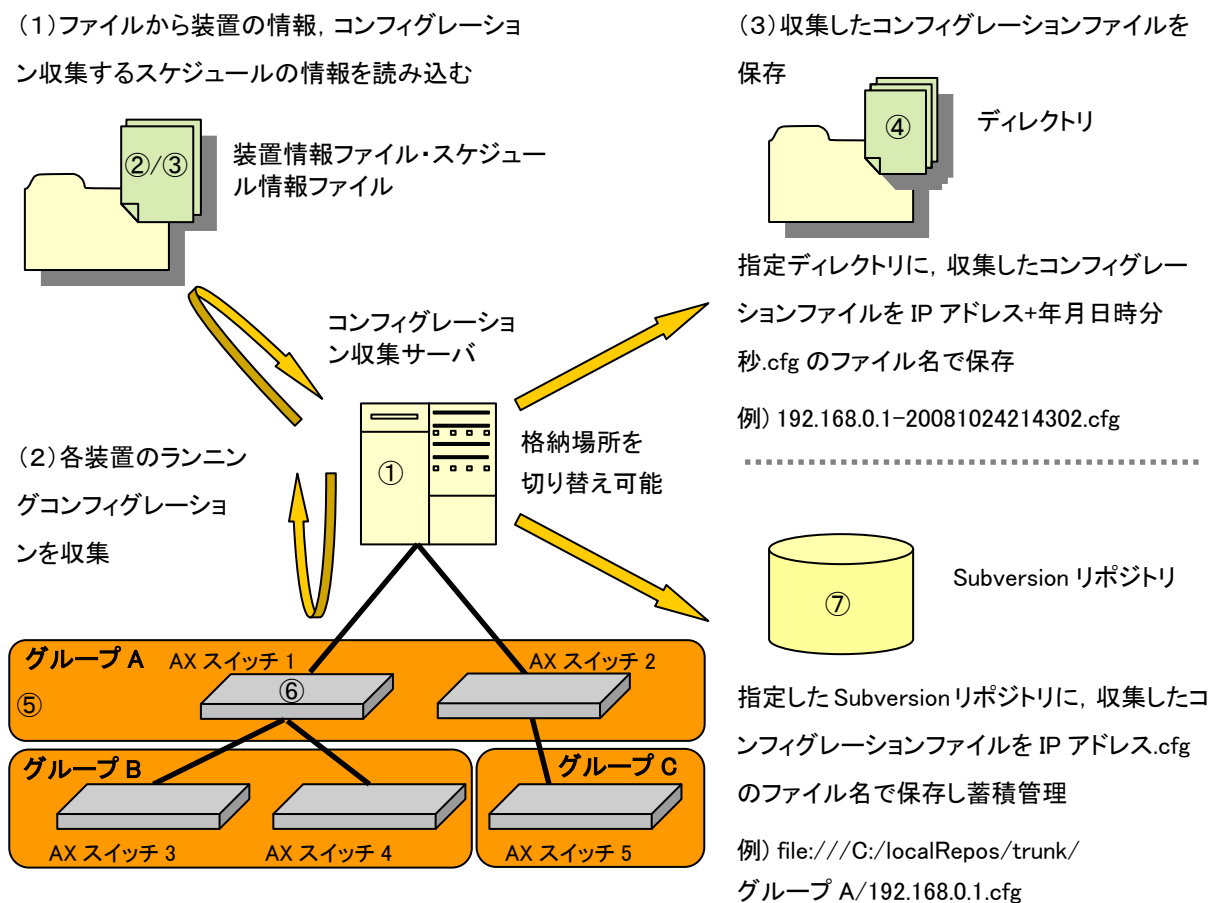
- 装置のコンフィグレーションを即時で収集，あるいは，スケジュールに従って定期的に収集することにより，任意の時点のコンフィグレーションのバックアップを保有することができます。
- 装置のコンフィグレーション収集を，GUI を利用して簡単に実施できます。コンフィグレーション収集対象装置の台数が多い場合に，作業者の負荷を軽減できます。

これにより，装置のコンフィグレーションを更新する度にコンフィグレーションのバックアップを作成したい場合や，そのコンフィグレーションバックアップを利用して装置のコンフィグレーションを復旧したい場合，また，装置交換を行う場合等に，装置で利用するコンフィグレーションファイルを保存しておくことが容易に行えるようになります。

1.1.1 コンフィグレーション収集ツール構成

コンフィグレーション収集ツールの構成を図に示します。

図 1-1 コンフィグレーション収集ツールの構成



構成要素を以下に示します。

① コンフィグレーション収集サーバ

AX-Networker's-Utility (コンフィグレーション収集ツール) をインストールした PC です。各装置のランニングコンフィグレーションを即時で、あるいは、スケジュールに従って収集します。

② 装置情報ファイル

グループとグループに所属する装置の情報を記載した、CSV 形式のファイルで

す。コンフィグレーション収集ツールから、グループ、装置の登録を行って作成するか、スプレッドシートアプリケーションやテキストエディタで作成します。

③ スケジュール情報ファイル

コンフィグレーションファイルを収集するスケジュールの情報を記載した、CSV形式のファイルです。コンフィグレーション収集ツールから、スケジュールの登録を行って作成するか、スプレッドシートアプリケーションやテキストエディタで作成します。

④ コンフィグレーションファイル

各装置のランニングコンフィグレーションを収集、格納したコンフィグレーションファイルです。

⑤ グループ

装置からコンフィグレーションファイルを収集する操作単位です。グループへは複数の装置を登録することができます。

⑥ 装置

コンフィグレーションファイルを収集する対象の装置です。

⑦ Subversion リポジトリ

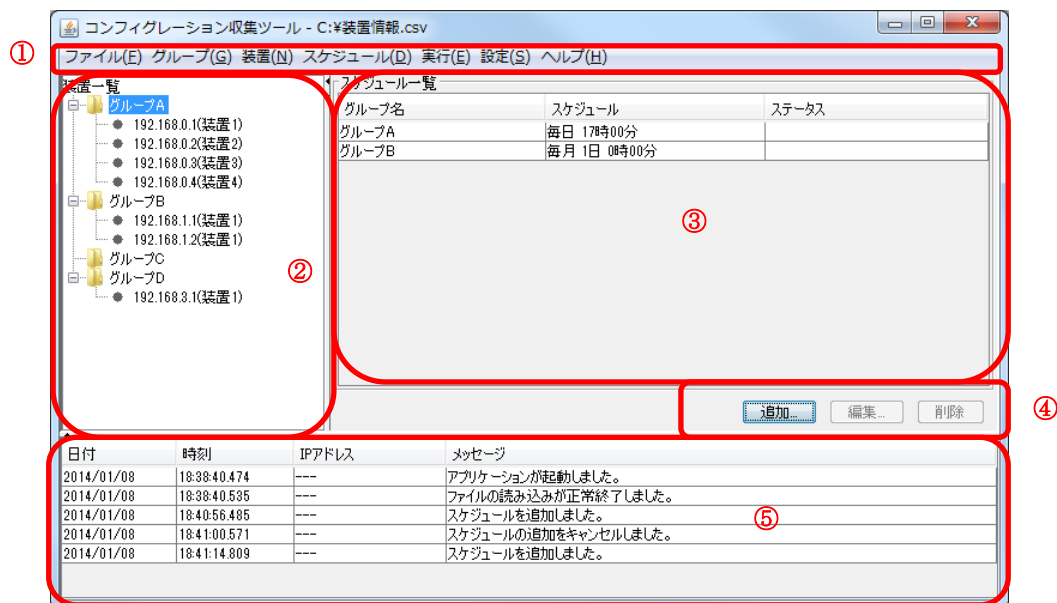
コンフィグレーションファイルをバージョン管理するための格納場所です。コンフィグレーションファイルをバージョン管理する環境を構築するためには、Subversion システム(注)をユーザにて導入する必要があります。コンフィグレーション収集ツールは、装置からコンフィグレーションファイルを収集し、Subversion システムに渡すことで、コンフィグレーションファイルの履歴管理ができるように格納します。

(注)Subversion は、ソースコードや文書などを管理するバージョン管理システムの一つ(フリーソフトウェア)

1.1.2 画面構成

コンフィグレーション収集ツールの画面構成を以下に示します。

図 1-2 コンフィグレーション収集ツールの画面構成



画面を構成する要素の説明を以下に示します。

① メインメニュー

コンフィグレーション収集ツールの操作を行うためのメニュー項目が定義されています。

② 装置一覧ツリー

装置をグループ毎にツリー表示します。グループの追加／変更／削除，装置の追加／変更／削除，コンフィグレーションの即時収集を実行できます。

③ スケジュール情報テーブル

各グループに設定されているスケジュール情報を一覧表示します。テーブルの左から順に以下の情報を表示します。ヘッダをクリックすると，クリックした列の内容でソートできます。

- ・ グループ名…グループ名を示します。
- ・ スケジュール…対象のグループに設定されているスケジュールの内容を示します。スケジュールには毎日，毎週，毎月があり，スケジュール設

定が有効な場合には、以下のように表示されます。

毎日 H時 mm分

毎週 E₁ [E₂, ..., E_n] 曜日 H時 mm分

毎月 d日 H時 mm分

H…0～23, mm…00～55(5 分刻み)

E_n…月, 火, 水, 木, 金, 土, 日から 1 つ以上

d日…1～28 日, 月末のいずれか(29 日, 30 日, 31 日は指定できません。また, 月末を指定した場合には, 月の最終日を指定したことになります。)

スケジュール設定が無効な場合には、なし と表示されます。

- ・ ステータス…スケジュールの実行状況を示します。スケジュール収集実行中は緑色で表示されます。また, 処理失敗時はピンク色で表示されます。実際には以下が表示されます。

実行中…スケジュールでのコンフィグレーション収集実行中

終了 (成功) …スケジュールでのコンフィグレーション収集成功

終了 (失敗) …スケジュールでのコンフィグレーション収集失敗

④ 装置操作ボタン

以下の操作を行うボタンです。

- ・ 追加…装置一覧ツリー上で選択されているグループに対して, コンフィグレーションファイルの収集スケジュールの登録を行います。
- ・ 編集…スケジュール一覧上で選択されているスケジュールの内容を変更します。
- ・ 削除…スケジュール一覧上で選択されているスケジュールを削除します。

⑤ ログ情報テーブル

画面操作, 処理状況を時系列に表示します。ヘッダをクリックすると, クリックした列の内容でソートできます。

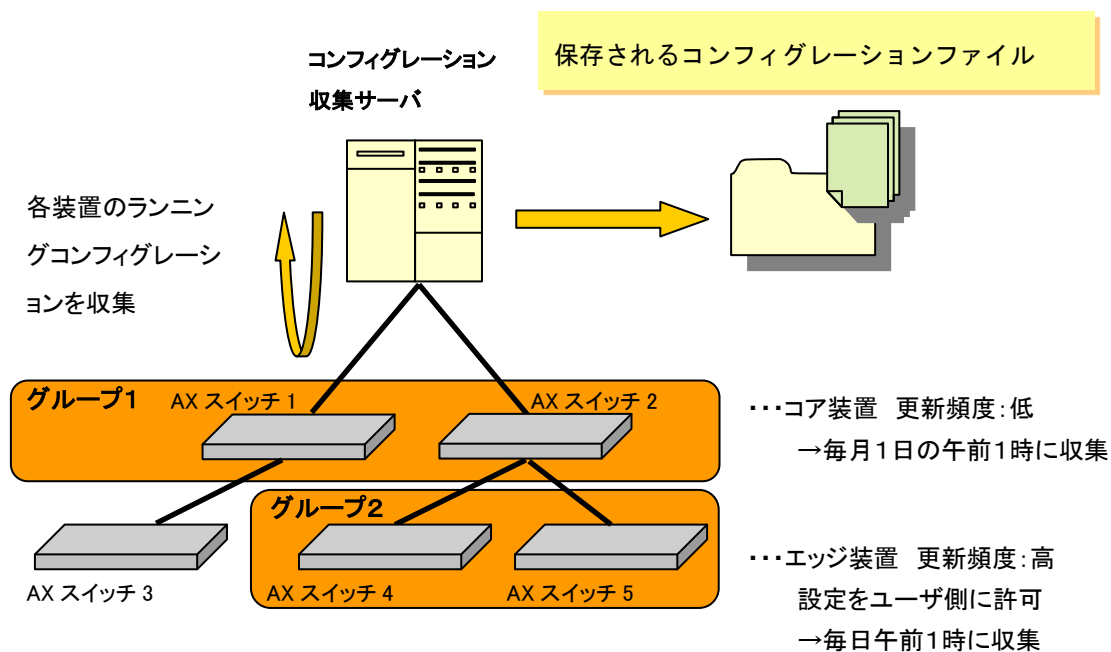
1.1.3 使用例

本節では、各ユースケースに応じた、コンフィグレーション収集ツールの使用例を説明します。

例 1：設定をユーザ側に許可している場合

フロアスイッチやサーバ収容スイッチといったエッジ装置の設定を部門管理者等のユーザ側にある程度許可しており、コンフィグレーションの更新頻度が高い場合は、それらをグループにしてまとめて、毎日夜中 1 時に収集させます。それ以外の、コンフィグレーションの更新頻度が低いコア装置のスイッチを別グループにまとめ、毎週もしくは毎月 1 回収集させて、不測の事態に備えられます。

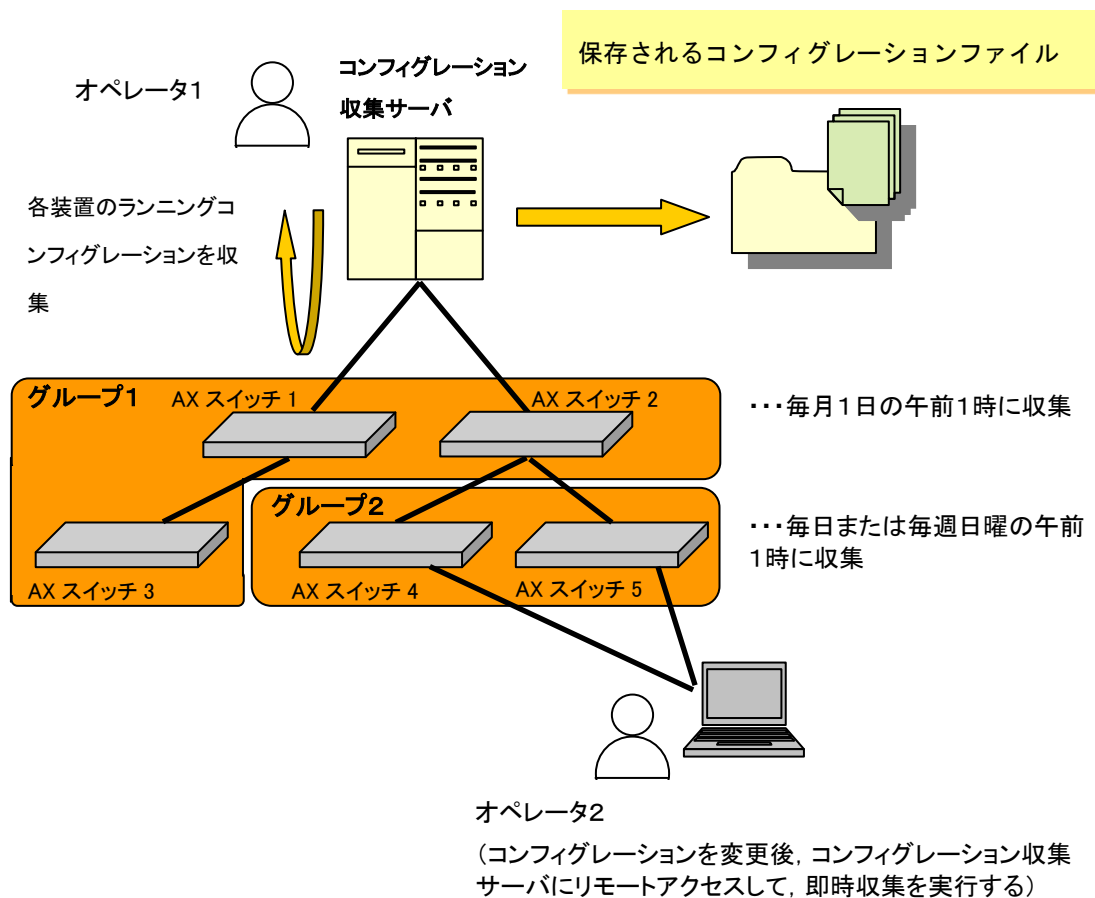
図 1-3 設定をユーザ側に許可している場合



例 2：複数のオペレータが変更する可能性がある場合

保守業者と部門管理者の両方が装置のコンフィグレーションを変更するようなネットワークを対象とする場合は、毎日もしくは毎週定時収集するように設定しておく、また、装置の設定を変更したオペレータがその都度「実行」で即時収集することをネットワーク変更時の手順に組み込めば、常に最新のネットワークのコンフィグレーション情報をバックアップできます。

図 1-4 複数のオペレータが変更する可能性がある場合

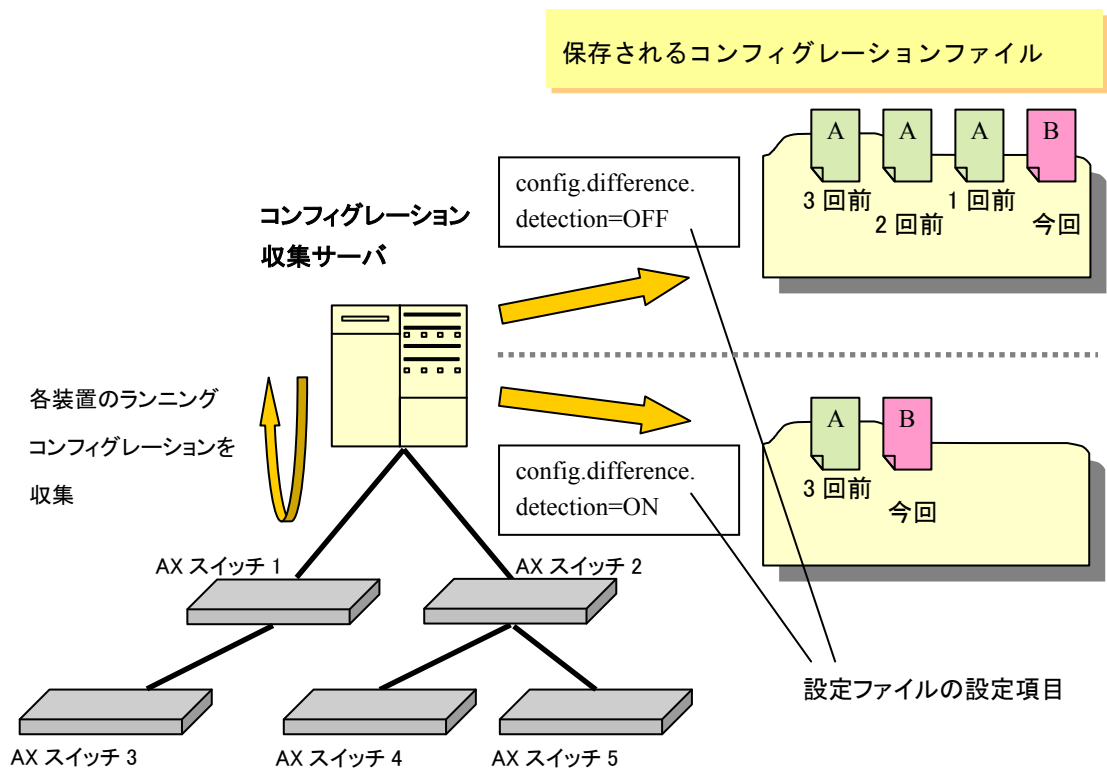


例 3：同じ内容のコンフィグレーション情報を保存したくない場合

毎日や毎週で定時収集させている場合、同じコンフィグレーションの内容で違う日付のファイルが保存されていく場合が多いですが、設定ファイルの

「`config.difference.detection`」の値を「ON」に変更することで、装置側で保存されたコンフィグレーション情報の日時がコンフィグレーション収集ツールで保存している最新のコンフィグレーション情報と同じ場合は保存しないようにできます。なお、即時収集でも同様になります。

図 1-5 同じ内容のコンフィグレーション情報を保存したくない場合



「`config.difference.detection`」の値によって、ある 1 装置のコンフィグレーション収集時に保存されるコンフィグレーションファイルは、上図の様に変わります。

例 4 : アプリケーション起動ツール等から本ツールを起動したい場合

コマンドライン文字列を登録してアプリケーションを起動するツール（アプリケーションランチャ）等から本ツールを起動したい場合には、以下の作業ディレクトリ（カレントディレクトリ）およびコマンドライン文字列を指定してください。

[作業ディレクトリ]

<TARGETDIR>%ConfigCollector

[コマンドライン文字列] ※1 行で記述します

"<TARGETDIR>%ConfigCollector%ConfigCollector.bat"

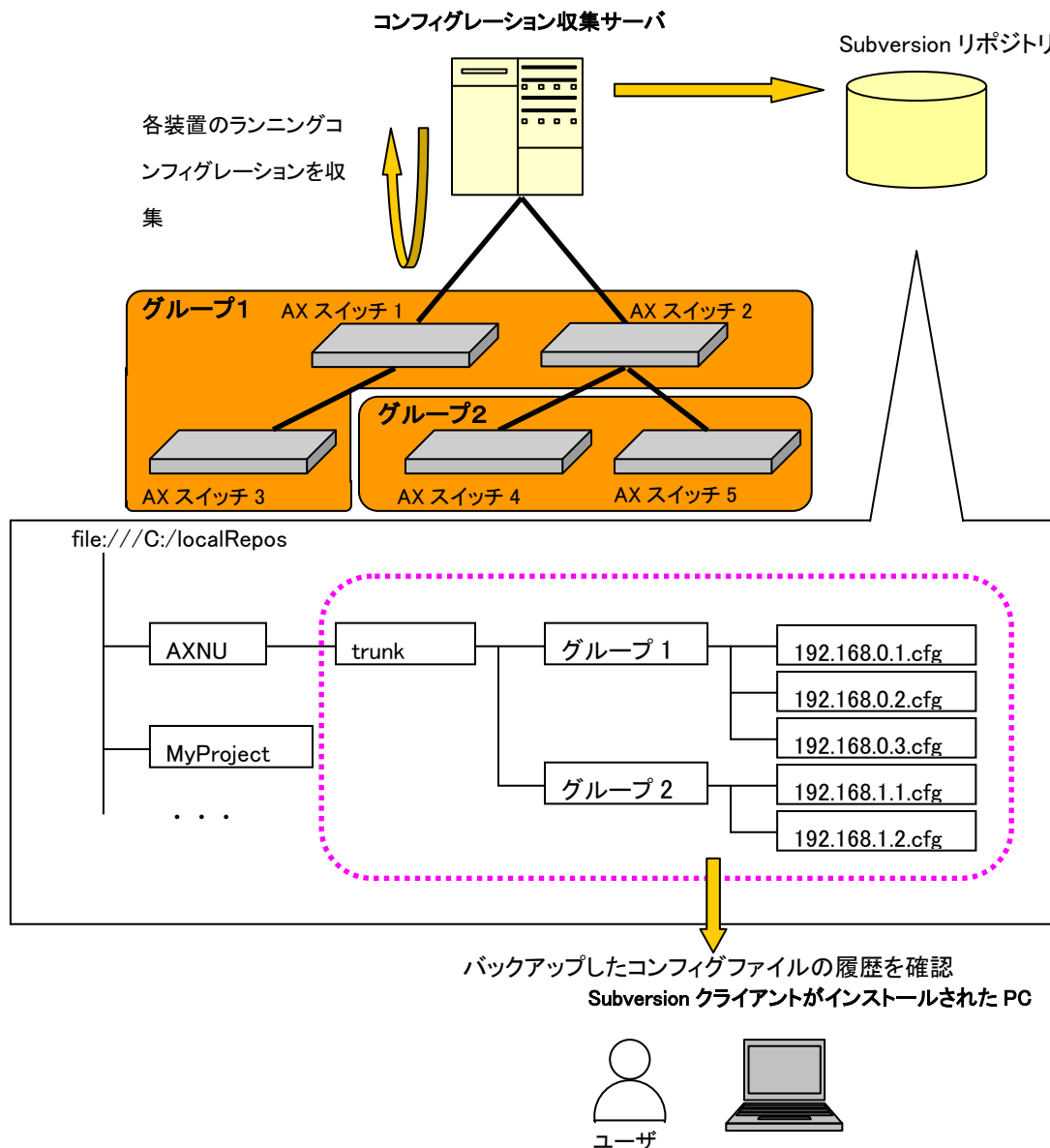
<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストールディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

例 5：収集したコンフィグレーションを Subversion リポジトリに保管し、外部の Subversion クライアントから履歴確認やバックアップファイル取得ができるようにしたい。

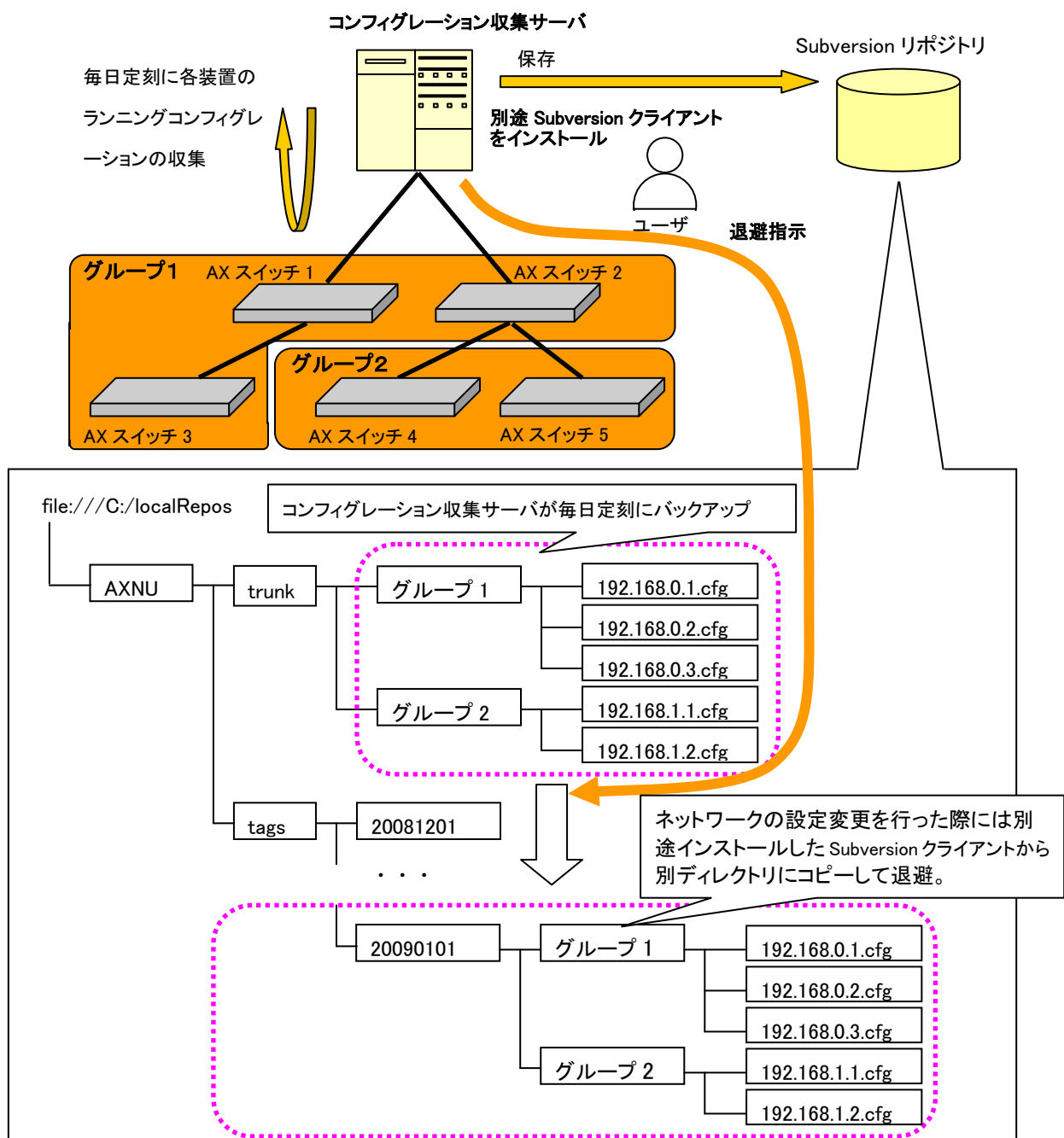
収集したコンフィグレーションを Subversion リポジトリへ保管すると、外部の Subversion クライアントからコンフィグレーションの収集に関する履歴確認や、(バックアップ用に) 収集したコンフィグレーションを取得できます。

図 1-6 収集したコンフィグレーションを Subversion リポジトリに保管し履歴管理したい



例6：ネットワークの設定変更を行った時点で、ネットワーク内のすべての装置のコンフィグレーションを一括してバックアップし、いつでもバックアップした時点の状態に復旧できるようにしておきたい

図 1-7 ネットワークの設定変更を行った時点で、ネットワーク内のすべての装置のコンフィグレーションを一括してバックアップし、いつでもバックアップした時点の状態に復旧できるようにしておきたい



ネットワークの設定変更を行った時点でコンフィグレーションの収集を即時実行し、装置の最新コンフィグレーションを Subversion リポジトリへ収集します。その後、コンフィグレーション収集サーバへ別途インストールした Subversion クライアントから、コンフィグレーション収集ツールの Subversion リポジトリを参照し、リポジトリ内の trunk 配下に収集した最新コンフィグレーションを別ディレクトリ（上例では 20081201 や 20090101 等）にコピーして退避することで、ネットワークの設定変更時点の複数装置コンフィグレーションの一括バックアップを作成できます。

例 7：コンフィグレーションを装置へ反映したい

過去に装置から収集（バックアップ）したコンフィグレーションを装置へ反映し、装置をその収集時点の設定に戻すことができます。コンフィグレーションの反映時には、反映するコンフィグレーションと、最新収集コンフィグレーションまたは任意のコンフィグレーションとで、コンフィグレーション内容の差分を確認することもできます。

過去に装置から収集したコンフィグレーションを装置へ反映する際、コンフィグレーションファイルの内容が収集時点から変更されているかどうかをチェックします。コンフィグレーションファイルの内容が変更されている場合には、警告表示します。

コンフィグレーションの反映操作では、過去に装置から収集したコンフィグレーションの他に、ある装置用のコンフィグレーションをエディタなどで別の装置用に修正したものも反映できます。

1.2 収容条件

コンフィグレーション収集ツールの収容条件を示します。

(1) 同時処理数

同時に処理できる装置台数の上限は 5 台です。

(2) ログ情報テーブルのレコード数

ログ情報テーブルのレコード数の上限は 3000 エントリです。

1.3 利用環境

コンフィグレーション収集ツールの利用環境を以下に示します。

表 1-1 装置側環境

対象装置	AX6700S/AX6600S/AX6300S/AX4600S AX3800S/AX3600S/AX2500S/AX2400S/AX2200S/AX2100S/AX1200S
対象ソフトウェアバージョン	AX6700S/AX6300S…10.8～11.9.U AX6600S…11.1～11.9.U AX4600S…11.11.B～11.15.E※1 AX3800S…11.6～11.14.Q※1 AX3660S…12.0.A～12.1.G※1 AX3650S…11.5～11.14.Q※1 AX3640S…10.8～11.14.P AX3630S…10.8～11.11.E AX2500S…3.1.A～4.11※2 AX2400S…10.8～11.7.N AX2200S…2.4～2.9 AX2100S…2.6～2.9 AX1250S…2.1～2.8 AX1240S…2.2～2.8 AX1230S…1.4～1.4.K

※1 AX4600S/AX3800S/AX3660S/AX3650S のスタック構成時は未サポートです。

※2 AX2500S(スタック構成時)は Ver.4.7 以降がサポート対象です。Ver.4.6 以前のスタック構成時は未サポートです。

表 1-2 コンフィグレーション収集サーバ側環境

推奨 OS	32bit 版 Windows 7 Professional (x86) SP なし, SP1
※1	32bit 版 Windows 7 Enterprise (x86) SP なし, SP1
	32bit 版 Windows 7 Ultimate (x86) SP なし, SP1
	32bit 版 Windows 8.1 Pro (x86) SP なし
	32bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x86) SP なし
	32bit 版 Windows 10 Pro (x86) Version 1809
	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Standard (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows Server 2012 R2 Standard (x64) SP なし
	64bit 版 Windows 7 Professional (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows 7 Enterprise (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows 7 Ultimate (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows 8.1 Pro (x64) SP なし
	64bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x64) SP なし
	64bit 版 Windows 10 Pro (x64) Version 1809
CPU	インテル Core 2 Duo 以上
メモリ	2GB 以上
HDD	1.9GB 以上
Java	JRE 8※2
実行環境	Oracle JDK 11(LTS)※2

※1 Linux 等推奨環境以外でも動作します（動作保証外です）

※2 動作確認済みの Java 実行環境は以下になります。

- ・ JRE 8 Update 202
- ・ JDK 11.0.2

上記より新しいアップデートリリースについては動作保証外になります。

1.4 注意事項

コンフィグレーション収集ツールを利用する上での注意事項を以下に示します。

(1) ファイルパスの最大長

本ツールで扱うファイルについて、そのファイルパスの最大長は、本ツールを利用するオペレーティングシステムで決まります。そのため、オペレーティングシステムがサポートしているファイルパスの最大長を越えるようなファイルを指定しないでください。

(2) 設定ファイルの「config.difference.detection」の値を「ON」にした場合の注意

設定ファイルの「config.difference.detection」の値を「ON」にした場合、以下を行わないでください。

- ・コンフィグレーション収集サーバの時刻を過去の時刻へ変更する
- ・コンフィグレーション格納先ディレクトリに格納されているコンフィグレーションファイルのファイル名を変更する
- ・コンフィグレーション格納先ディレクトリへディレクトリやファイルを追加する

上記の操作を実施した場合、装置側が持つコンフィグレーション情報と、コンフィグレーション収集ツールで保存している最新のコンフィグレーション情報を比較する際、コンフィグレーション情報に差分があるかどうかの判断が不正になります。その結果、同じ内容のコンフィグレーション情報を保存する、異なる内容のコンフィグレーション情報を保存しない等、不正な動作を引き起こします。

また、以下の装置で以下のコンフィグレーションコマンドが設定されている場合に以下のバージョン間でソフトウェア更新を行うと、該当のコンフィグレーションコマンドの順序が変わります。そのため、本ツールではコンフィグレーション情報に差分があると判断して、コンフィグレーションを保存します。

[該当の装置およびバージョン]

- ・ AX2500S Ver.3.5.B より前のバージョンから Ver.3.5.B 以上へ更新
- ・ AX2200S/AX1250S/AX1240S Ver.2.4.B より前のバージョンから Ver.2.4.B 以上へ更新

[該当のコンフィグレーションコマンド]

- l2protocol-tunnel eap
- l2protocol-tunnel stp

(3) 装置情報ファイル

装置情報ファイルは AX-Networker's-Utility の他のツールと内容が異なるため、共用できません。ツール毎に装置情報ファイルの作成および保存を行うようにしてください。

(4) コンフィグレーションハッシュファイル

本ツールでは、装置からコンフィグレーションの収集を行った際、収集したコンフィグレーションファイルの内容からハッシュを生成します。そのハッシュは、コンフィグレーションハッシュファイル(ファイル名は*_configurationhash.csv)に格納され、コンフィグレーションの反映の際に、収集済みコンフィグレーションファイルの内容が変更されているかどうかをチェックするために利用されます。そのため、コンフィグレーションハッシュファイル自体を削除、またはその内容をエディタなどで変更しないでください。

(5) コンフィグレーション反映操作時の注意事項

コンフィグレーションの反映操作では以下の注意事項があります。

- 異なる装置モデルのコンフィグレーションや、異なるソフトウェアバージョンに対応するコンフィグレーションを装置へ反映しないでください。

AX6700S/AX6600S/AX6300S/AX4600S シリーズでは、実装している NIF の構成と矛盾するコンフィグレーションを装置へ反映しないでください。

- コンフィグレーションをエディタなどで編集し、装置へそのコンフィグレーションを反映する場合、反映する前に装置や本ツールによってコンフィグレーション内容がチェックされないため、コンフィグレーションの反映に失敗する場合があります。そのため、エディタなどを利用してコンフィグレーションの編集を行う場合、細心の注意を払い、実施者の責任でコンフィグレーション反映を行ってください。
- 装置へ反映するコンフィグレーションでは、netconf コマンドが定義されている必要があります。

- ・装置へ反映するコンフィグレーションでは、本ツールを実行している PC からの通信を拒否するアクセスリストを定義しないでください。
- ・装置へ反映するコンフィグレーションでは、本ツールで登録している装置の IP アドレスを変更しないでください。本ツールで登録している装置の IP アドレスは、装置へ反映するコンフィグレーションでは VLAN インタフェースの IP アドレスとして登録されています。
- ・コマンド文法上の誤りを持つコンフィグレーションを装置へ反映した場合、AX6700S/AX6600S/AX6300S/AX4600S/AX3800S/AX3600S/AX2400S シリーズではツール上でエラー終了し、装置上のコンフィグレーションは変更されません。AX2500S/AX2200S/AX2100S/AX1200S シリーズでは、コマンド文法上の誤りを持つ行が無視された状態でコンフィグレーションが反映され、正常終了します。
- ・コンフィグレーションの反映操作を行うと、装置では一時的に通信が停止します。さらに AX2500S/AX2200S/AX2100S/AX1200S シリーズでは、装置が再起動します。
- ・装置上で未保存のコンフィグレーション内容は失われますので、必要に応じてコンフィグレーション反映操作の実施前に確認および保存を行ってください。
- ・コンフィグレーション収集サーバと管理対象装置の間を、HUB 等の機器を介さず直接接続した状態で、その直接接続した管理対象装置に対してコンフィグレーション反映操作を行わないでください。
- ・AX2500S(スタック構成)では制限容量(約 1MB)を超えるコンフィグレーションファイルは反映できません。

2. 準備

この章では、コンフィグレーション収集ツールを実行するために必要な事前準備について説明します。

[2.1 コンフィグレーション収集ツールのインストール](#)

[2.2 装置の設定を行う](#)

[2.3 コンフィグレーション収集サーバの設定を行う](#)

2.1 コンフィグレーション収集ツールのインストール

(1) インストール

AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド（インストール編）を参照し、AX-Networker's-Utility をコンフィグレーション収集サーバへインストールしてください。

(2) 起動確認

インストールが完了した後、ツールの起動確認を行います。ツールを起動するには、以下の操作を行ってください。

エクスプローラから以下のファイル(※1)を右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

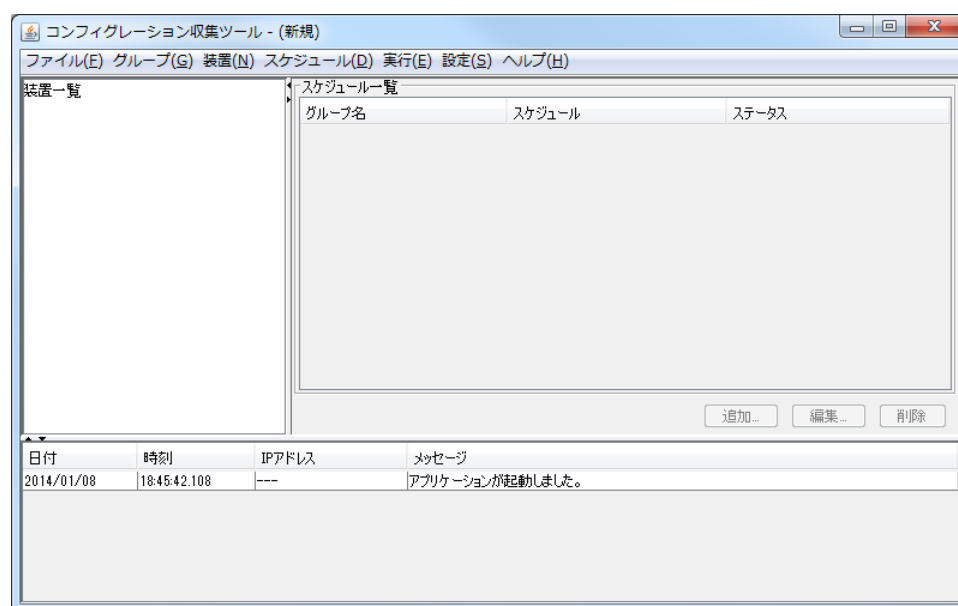
※1…<TARGETDIR>%ConfigCollector%ConfigCollector.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

ツールを起動すると、以下の画面が表示されます。

図 2-1 ツール起動時の画面



アプリケーションが起動した旨のログメッセージが表示されることを確認してください。

ツールの起動を確認した後、[ファイル]-[終了]メニューを選択して、一旦ツールを終了してください。

2.2 装置の設定を行う

利用を開始するにあたり、以下の準備、設定を行います。

(1) コンフィグレーション収集サーバから対象装置へ、IPv4 ネットワーク的に到達可能とします

コンフィグレーション収集サーバと対象装置が IP 通信できるように、ネットワーク接続してください。そのためには、対象装置上に IPv4 アドレスを設定します。また、コンフィグレーション収集サーバと対象装置の間にスイッチやルータ等のネットワーク装置が存在する場合、コンフィグレーション収集サーバと対象装置の間で通信可能なように、それらのネットワーク装置に対してルーティング設定を行います。

(2) 対象装置のコンフィグレーションを保存またはバックアップします

必要に応じて対象装置上で未保存のコンフィグレーションを保存します。または、対象装置のコンフィグレーションをバックアップします。

(3) 対象装置でコンフィグレーション収集機能が利用できるように、netconf 機能を有効にします

続いて、装置がコンフィグレーション収集ツールから要求を受け付けられるよう、装置側の設定を行います。装置を起動し、装置にログイン後、装置の CLI から次のコマンドを入力します。netconf 機能に関するコマンドの詳細については AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド（インストール編）の「5. 付録」をご確認ください。

```
>enable  
# configure  
!(config)# netconf  
!(config-netconf)# top  
!(config)# save  
(config)# exit
```

2.3 コンフィグレーション収集サーバの設定を行う

収集したコンフィグレーションを Subversion のリポジトリに保存できるようにするための準備・設定を行います。

(1) 収集したコンフィグレーションファイルを保存する Subversion のリポジトリを作成する

① コマンドプロンプトを開きます。

② 以下のコマンドを実行して Subversion1.5.5 がインストールされていることを確認してください。Subversion1.5.5 でない場合は、下記の注意事項より、環境変数の Path の値を書き換えてから、後続の操作を実施してください。

```
C:\>svnadmin --version
```

③ コンフィグレーション収集サーバの C ドライブの(あらかじめ作成しておいた)localRepos ディレクトリに "projectA" という FSFS リポジトリを作成するコマンド例を次に示します。

```
C:\>svnadmin create localRepos/projectA --fs-type fsfs
```

生成したリポジトリにアクセスするときのリポジトリパスは次のようになります。

```
file:///C:/localRepos/projectA
```

[注意事項]

・ "svnadmin --version" コマンドで Subversion1.5.5 以外のバージョンが表示された場合は、以下の手順で環境変数 Path を書き換えてください。下記は Windows 7 の場合の例になります。

① [スタート]メニューから[コンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選択して[システム]画面を開きます。

② [システムの詳細設定]を押下し、[システムのプロパティ]画面を開きます。

③ [詳細設定]タブを選択し、[環境変数]ボタンを押下して[環境変数]画面を開きます。

④ [システム環境変数]一覧で「Path」を選択し、[編集]ボタンを押下して[システム変数の編集]画面を開きます。

⑤ 指定項目[変数値]の記述の末尾に追記した Subversion 1.5.5 のインストール先ディレクトリおよび AX-Networker's-Utility のインストールディレクトリ配下のパスを必要に応じて、他のパスの前へ移動させてください。変更後、[OK]ボタンを押下して[システム変数の編集]画面を閉じます。また、[環境変数]画面、[システムのプロパティ]画面も[OK] ボタンを押下して閉じます。

※本変更によって他のアプリケーションが影響を受ける場合があります。他のアプリケーションの動作が不安定になる場合、変更前の環境変数 Path の値に戻すようにしてください。

- ・収集したコンフィグレーションファイルを保存する Subversion のリポジトリをネットワークドライブ上に作成しないでください。ネットワークドライブ切断時、誤動作を引き起こす可能性があります。Subversion のリポジトリをネットワークドライブ上に作成した場合の動作はサポート対象外です。
- ・下記に示す OS では、Subversion 機能を使用することができません。

表 2-1 Subversion 機能を使用することができない環境

OS	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Standard (x64) SP なし, SP1 64bit 版 Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64) SP なし, SP1 64bit 版 Windows Server 2012 R2 Standard (x64) SP なし 64bit 版 Windows 7 Professional (x64) SP なし, SP1 64bit 版 Windows 7 Enterprise (x64) SP なし, SP1 64bit 版 Windows 7 Ultimate (x64) SP なし, SP1 64bit 版 Windows 8.1 Pro (x64) SP なし 64bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x64) SP なし 64bit 版 Windows 10 Pro (x64) Version 1709
----	--

(2) 作成した Subversion リポジトリの URL をツールへ設定する

生成した Subversion リポジトリをコンフィグレーション格納場所としてツールへ設定します。設定方法については [3.2.1 コンフィグレーション格納場所を指定する](#) を参照してください。

Subversion リポジトリへのコンフィグレーションの格納以外の設定として以下を実施してください。

(3) 利用可能な最大メモリサイズを変更する

本ツールから大きなコンフィグレーションを持つ装置に対してコンフィグレーション収集を行うと、ツールが使用するメモリ量が利用可能な最大メモリサイズを超える場合があります。対象の装置が大きなコンフィグレーションを持つ場合※1 に

は、下記の手順で本ツールが利用可能な最大メモリサイズを変更してください。

※1 目安として、装置のコンフィグレーションの行数が 6000 行を超える場合が該当します。

(最もメモリを使用する、5 台以上の装置が存在するグループに対してコンフィグレーション収集を行うケースを想定した場合の目安になります。装置 1 台だけのグループに対してコンフィグレーション収集を行うケースでは、装置のコンフィグレーションの行数が 30000 行を超える場合が該当します。なお、6 台以上の装置が存在するグループに対してコンフィグレーション収集を行うケースは、5 台のケースと同様になります。)

[変更手順]

①<TARGETDIR>%ConfigCollector%ConfigCollector.bat をマウスで右クリックし、表示されたポップアップメニューから[編集]を選択します。

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

②表示された中身の「set PARAMETERS=-Xmx1024m -jar %JARFILE%」の

「-Xmx1024m」(上記の下線部)を変更し、上書き保存します。この指定例では、ツールへ割り当てるメモリの量を 1024MB で指定しています。

③<TARGETDIR>%ConfigCollector%ConfigCollector.bat をマウスで右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択して本ツールを起動します。

④「[3.2 装置のコンフィグレーションファイルを収集する](#)」に記載の方法でコンフィグレーション収集を行い、正常終了するか確認してください。メッセージ「処理中にメモリ不足エラーが発生しました。」が表示される場合には、②で指定する -Xmx1024m の 1024 をより大きな値に設定し直して再度確認してください。

3. コンフィグレーションファイルの収集

この章では、コンフィグレーション収集ツールの操作方法について説明します。

[3.1 装置を登録する](#)

[3.2 装置のコンフィグレーションファイルを収集する](#)

[3.3 タグ名を付けてコンフィグレーションファイルを保存する](#)

[3.4 コンフィグレーションファイルを反映する](#)

3.1 装置を登録する

コンフィグレーション収集ツールから装置のコンフィグレーション収集を行うには、まず始めに、ツール上で装置の登録を行います。装置の登録方法には、以下の3通りの方法があります。

方法1：GUIから登録する（「[3.1.1 GUIから登録する](#)」参照）

方法2：装置情報ファイルから登録する（「[3.1.2 装置情報ファイルから登録する](#)」参照）

方法3：装置情報のインポート・エクスポートで登録する（「[3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート](#)」参照）

コンフィグレーション収集ツールを起動すると、ツール終了前に正常に読み込んだか保存を行った装置情報ファイルを自動的に読み込み、装置ツリー上に表示します。なお、GUIからの操作はメニュー、メニューに設定されているキーボードショートカット(Ctrl+キー)、ボタンのいずれか任意の方法で行えます。

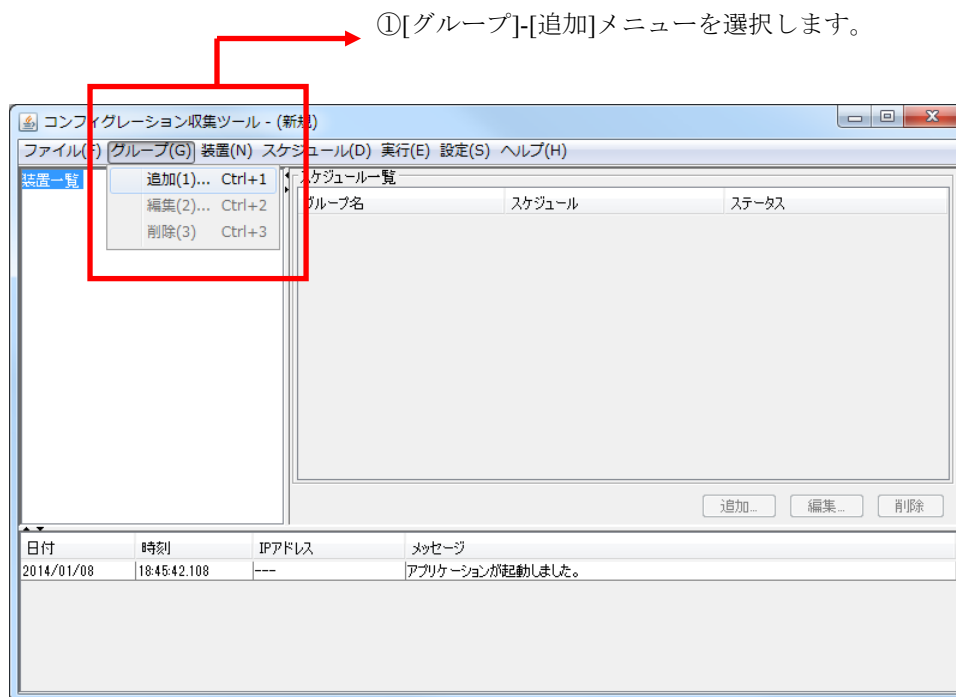
3.1.1 GUIから登録する

(1) グループを登録する

まず始めに、ツールを起動しグループの登録を行います。ツールの起動方法については、「[2.1 コンフィグレーション収集ツールのインストール \(2\)起動確認](#)」を参照してください。

グループを登録するには、装置一覧ツリー上で[装置一覧]ノードを選択して、[グループ]-[追加]メニューを選択し、[グループ情報設定]画面を開きます。

図 3-1 グループ登録（１）



[グループ情報設定]画面を開いたら、グループ名（１～３２文字）を入力し、[OK] ボタンを押下します。

[注意事項]

グループ名として HTML タグやタブ文字を使用しないでください。HTML タグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されない場合があります。

図 3-2 グループ登録（２）

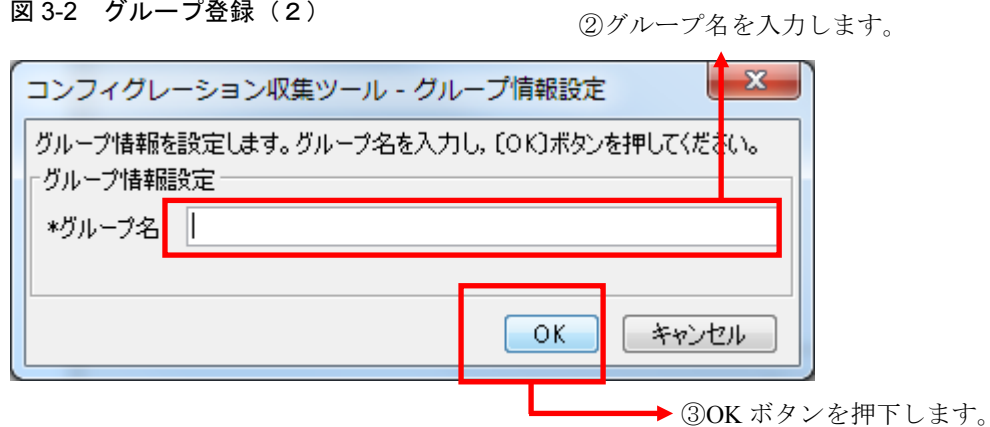
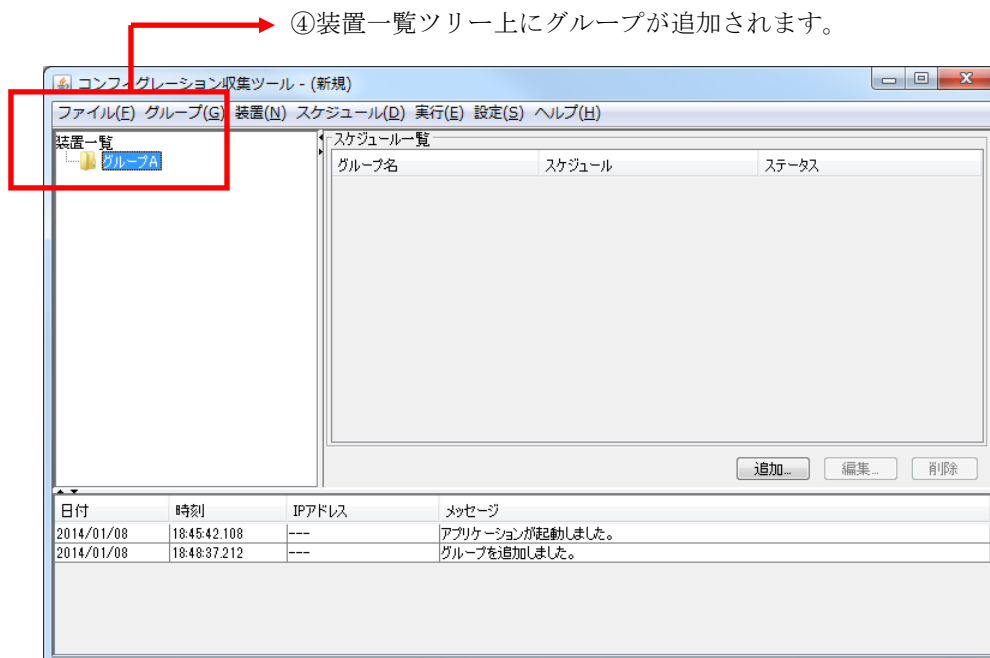


図 3-3 グループ登録（3）



(2) グループ名を変更する／登録したグループを削除する

グループ名の変更を行うには、装置一覧ツリー上でグループを選択して、[グループ]-[編集]メニューを選択し、[グループ情報設定]画面を開きます。

[グループ情報設定]画面を開いたら、グループ名（1～32文字）を入力し、[OK]ボタンを押下します。

グループの削除を行うには、装置一覧ツリー上でグループを選択して、[グループ]-[削除]メニューを選択します。

(3) 装置を登録する

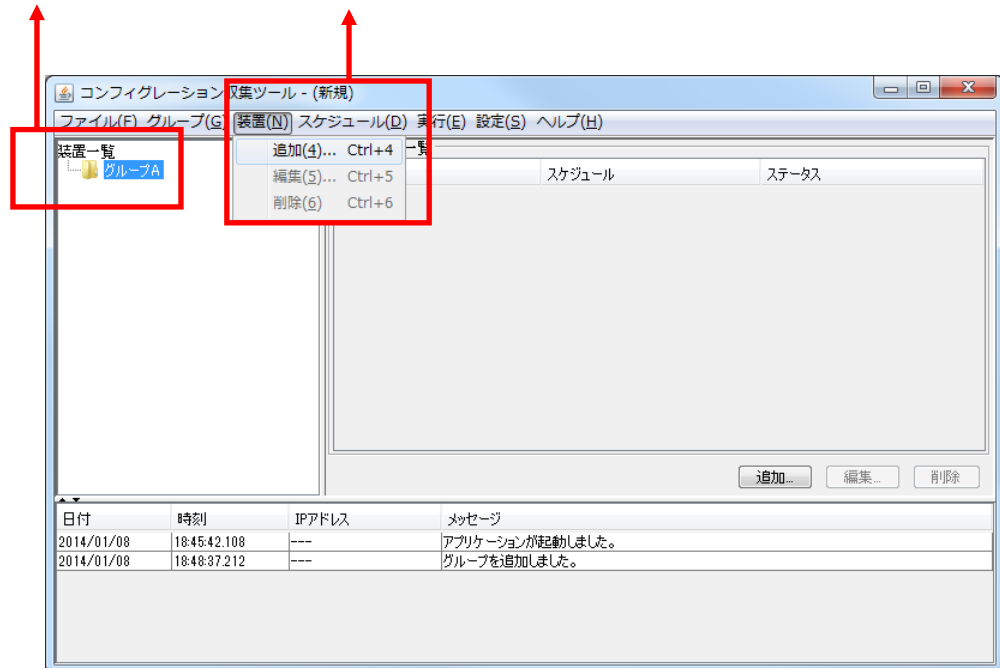
グループを登録した後、グループに装置を登録します。

装置を登録するには、装置一覧ツリー上でグループを選択して、[装置]-[追加]メニューを選択し、[装置情報設定]画面を開きます。

図 3-4 装置登録（１）

①グループを選択します。

②[装置]-[追加]メニューを選択します。



[装置情報設定]画面を開いたら、装置名（0～64 文字），IP アドレス（10 進ドット記法の IPv4 アドレス）を入力して，[OK]ボタンを押下します。なお，装置名は入力を省略することができます。

[注意事項]

装置名として HTML タグやタブ文字を使用しないでください。HTML タグやタブ文字を使用すると，ツール上で正しく表示されない場合があります。

図 3-5 装置登録（2）

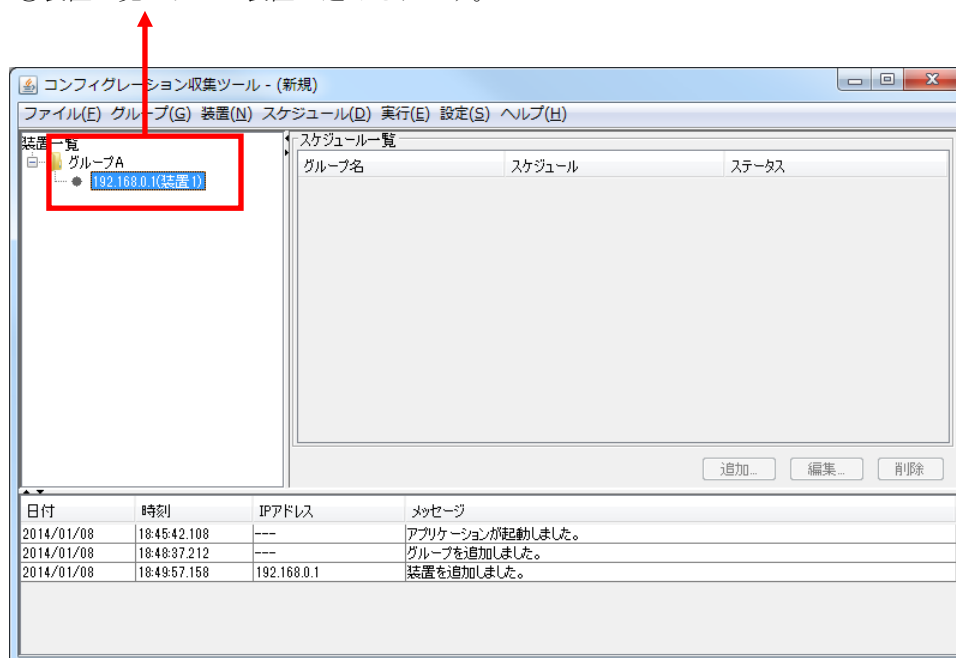
③装置名，IP アドレスを入力します。

※装置名は入力を省略することができます。

④OK ボタンを押下します。

図 3-6 装置登録（3）

⑤装置一覧ツリーに装置が追加されます。



(4) 装置情報を変更する／登録した装置を削除する

装置情報の変更を行うには，装置一覧ツリー上で装置を選択して，[装置]-[編集]メ

ニューを選択し、[装置情報設定]画面を開きます。[装置情報設定]画面を開いたら、必要な情報を入力し、[OK]ボタンを押下します。

装置の削除を行うには、装置一覧ツリー上で装置を選択して、[装置]-[削除]メニューを選択します。

3.1.2 装置情報ファイルから登録する

グループや装置は、グループや装置の情報を定義した装置情報ファイルを、コンフィグレーション収集ツールから読み込んで登録することもできます。

(1) 装置情報ファイル

装置情報ファイルは、[ファイル]-[名前を付けて保存]、または、[ファイル]-[上書き保存]メニューを実行した際に保存される、ツール上のグループ、および、装置の情報を記録したファイルです。ツールから保存した装置情報ファイルは、[ファイル]-[開く]メニューから、再びツール上に読み込むことができます。

装置情報ファイルのフォーマットは CSV 形式のテキストファイルです。従って、テキストエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用して作成することもできます。装置情報ファイルの例と、装置情報ファイルをテーブル形式で表示したイメージを次図および次表に示します。

[注意事項]

- 装置情報ファイル/[スケジュール情報ファイル](#)をスプレッドシートアプリケーションで編集する場合は、各フィールドの値（例：グループ名や装置名）に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用しないでください。

グループ名や装置名等に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用すると、ツールからファイルを読み込んだ際に、グループ名や装置名等が正しく表示されない、または、ファイルの読み込みに失敗する場合があります。

- コンフィグレーションファイルの格納場所に Subversion のリポジトリを指定する場合は、グループ名に以下の文字を使用しないでください。

¥/:*?"<>|

- 各フィールドの値として HTML タグやタブ文字を使用しないでください。HTML タグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されない場合があります。

図 3-7 装置情報ファイルの例

グループ名,IP アドレス,装置名
 グループ A,192.168.0.1,装置 1
 グループ A,192.168.0.2,装置 2
 グループ A,192.168.0.3,
 グループ A,192.168.0.4,装置 4
 グループ B,192.168.1.1,装置 1
 グループ B,192.168.1.2,装置 2
 グループ C,,
 グループ D,192.168.3.1,装置 1

表 3-1 装置情報ファイルをテーブル形式で表示したイメージ

	A	B	C
1	グループ名	IP アドレス	装置名
2	グループ A	192.168.0.1	装置 1
3	グループ A	192.168.0.2	装置 2
4	グループ A	192.168.0.3	
5	グループ A	192.168.0.4	装置 4
6	グループ B	192.168.1.1	装置 1
7	グループ B	192.168.1.2	装置 2
8	グループ C		
9	グループ D	192.168.3.1	装置 1

- ・装置情報ファイルを作成する場合、1行目にはヘッダ情報を記述し、2行目以降に各装置の装置情報を記述します。※1※3
- ・A列：グループ名は1～32文字で設定可能です。
- ・B列：IPアドレスは10進ドット記法のIPv4アドレスで設定可能です。
- ・C列：装置名は0～64文字で設定可能です。
- ・4行目のC列には、装置名の指定がありませんが、このように、装置名は指定を省略することができます（その他の項目は指定が必須であり、省略することはありません）。
- ・また、8行目はA列のグループ名のみ指定されていますが、このような装置情報は、「装置情報のエントリがないグループ」という特別な意味を持ちます。※2
- ・各列の指定値が不正(範囲外)な場合、装置情報ファイル読み込み時にエラーとなります。

※1 1行目（ヘッダ情報）は省略できませんが、ヘッダ情報の記述内容は任意です。（上図の例と同様の記述にする必要はありません。）

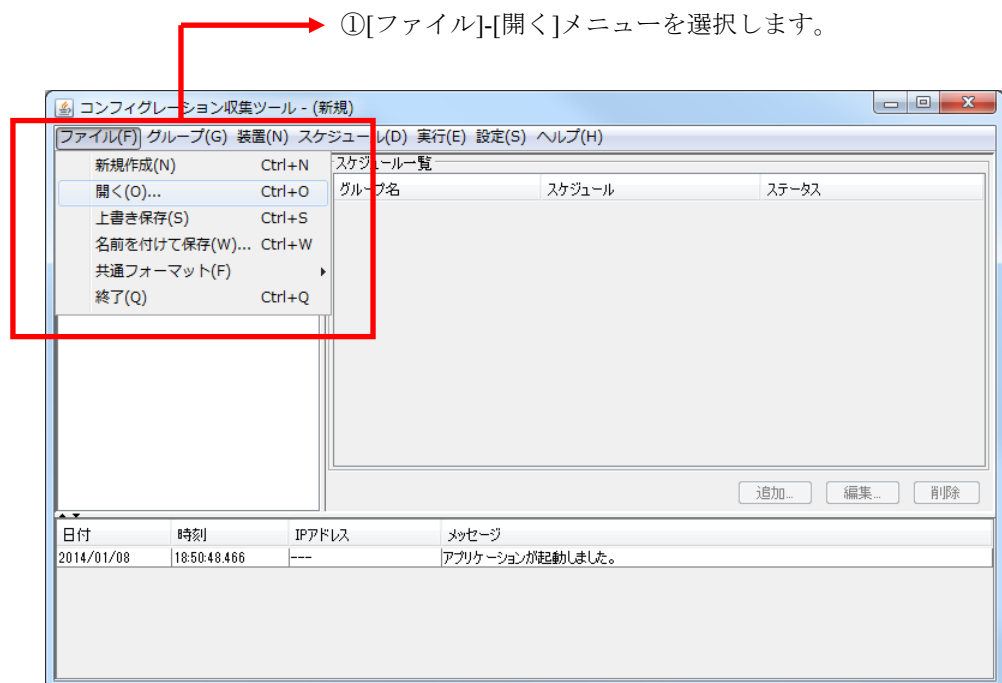
※2 グループ名のみ指定した装置情報を、同一のグループ名で複数件登録した場合、2件目以降は無視されます。

※3 装置情報ファイルには空行（改行だけの行）を記述できません。記述した場合にはエラーになります。

(2) 作成した装置情報ファイルを読み込む

作成したファイルをツールに読み込むには、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面を開きます。

図 3-8 装置情報ファイルの読み込み（１）



ファイル選択画面を開いたら、作成した装置情報ファイルを選択し、[開く]ボタンを押下します。

図 3-9 装置情報ファイルの読み込み（２）

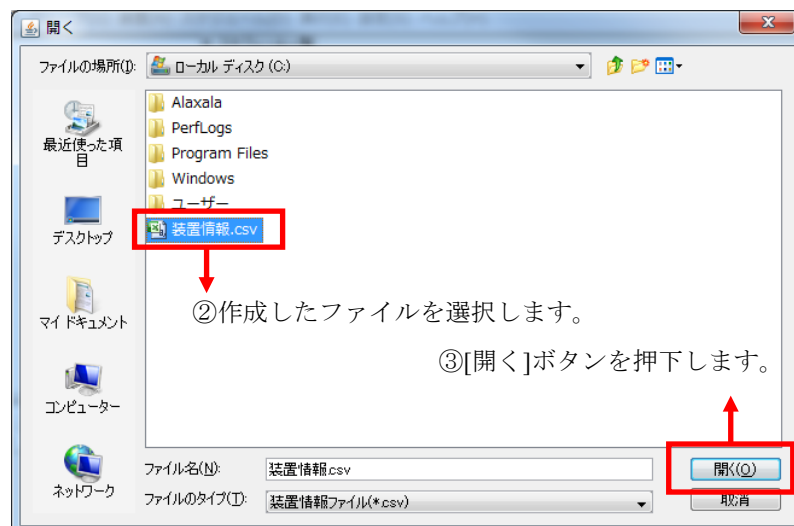
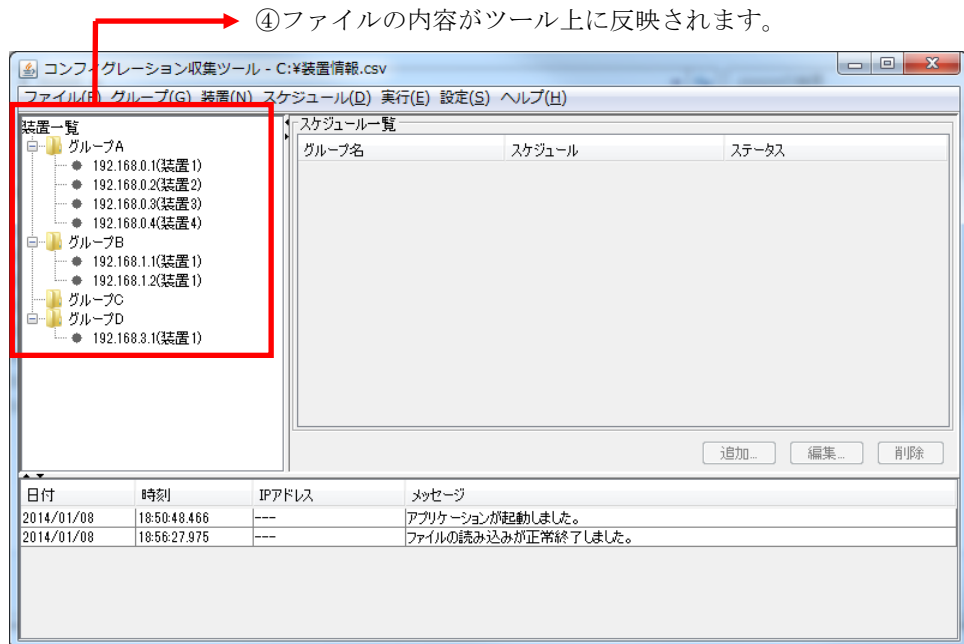


図 3-10 装置情報ファイルの読み込み（3）



[注意事項]

スケジュール情報ファイルに関して：

コンフィグレーション収集ツールから、[ファイル]-[名前を付けて保存]、または、[ファイル]-[上書き保存]メニューを実行すると、装置情報ファイルと併せて[スケジュール情報ファイル](#)（ファイル名が、「[装置情報ファイル名の拡張子(.csv)を除いた部分]_schedule.csv」のファイル※1）も生成されます。また、[ファイル]-[開く]メニューから、装置情報ファイルの読み込みを行う際に、同ファイル格納ディレクトリ内に、装置情報ファイルと同名のスケジュール情報ファイルが存在すると、コンフィグレーション収集ツールは、併せてスケジュール情報ファイルの読み込みも行います。従って、用意した装置情報ファイルの読み込みを行う際には、同ファイル格納ディレクトリに、同名のスケジュール情報ファイルが存在していないことを確認するか、存在する場合は、用意した装置情報ファイルと整合性がとれており、併せて読み込み可能なスケジュール情報ファイルであることを確認してください。（詳しくは、「[3.2.5 スケジュール情報ファイルからスケジュールを登録する](#)」を参照してください。）

※1 装置情報ファイル名が node.csv の場合、スケジュール情報ファイルとして生成されるファイルは node_schedule.csv になります。

3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート

本ツールに登録したグループや装置の情報は、共通フォーマットファイルを介して、AX-Networker's-Utility の他ツールと相互にエクスポート・インポートすることができます。つまり、本ツールに登録したグループや装置の情報を AX-Networker's-Utility の他ツール用にエクスポート、および AX-Networker's-Utility の他ツールへ登録したグループや装置の情報を本ツールへインポートできます。

(1) 共通フォーマットファイル

共通フォーマットファイルは、本ツールへ登録した装置情報を AX-Networker's-Utility の他ツール用にエクスポート、または AX-Networker's-Utility の他ツールへ登録した装置情報を本ツールへインポートするためのファイルです。[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート...]メニューを選択することで、共通フォーマットファイル形式で装置情報をエクスポートし、[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート...]メニューを選択することで、共通フォーマットファイル形式で装置情報をインポートすることができます。

共通フォーマットファイルのフォーマットは CSV 形式のテキストファイルです。従って、テキストエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用して作成することもできますが、ツールの共通フォーマットファイルのエクスポートで作成することをおすすめします。エクスポート後、必要に応じて、エクスポートした共通フォーマットファイルをテキストエディタやスプレッドシートアプリケーションで修正することが可能です。

AX-Networker's-Utility の他ツールでエクスポートした共通フォーマットファイルから本ツールへのインポートを行う際、共通フォーマットファイルに本ツールでの必須指定項目が指定されていない場合には、その指定されていない項目をテキストエディタやスプレッドシートアプリケーションで追加してからインポートを行ってください。

共通フォーマットファイルの項目と本ツールでの指定値を次表に示します。

表 3-2 共通フォーマットファイルの項目と本ツールでの指定値

項目	指定値
グループ名	グループ名を 1～32 文字で指定します。 必須指定項目です。

チェックボックスのチェック状態	本ツールでは利用しません。
IP アドレス	IP アドレスを 10 進ドット記法の IPv4 アドレスで指定します。 必須指定項目です。
装置名	装置名を 0～64 文字で指定します。 任意指定項目です。
場所	本ツールでは利用しません。
ソフトウェア更新機能アカウント	本ツールでは利用しません。
ソフトウェア更新機能パスワード	本ツールでは利用しません。
Web 認証画面入れ替え機能アカウント	本ツールでは利用しません。
Web 認証画面入れ替え機能パスワード	本ツールでは利用しません。
メール通知制限	本ツールでは利用しません。
装置モデル	本ツールでは利用しません。
省電力モード	本ツールでは利用しません。
電力制御設定	本ツールでは利用しません。
NIF ボード情報	本ツールでは利用しません。
NIF ボード LED 動作	本ツールでは利用しません。
スイッチングユニット設定	本ツールでは利用しません。
スイッチングユニットの枚数設定	本ツールでは利用しません。
待機系スイッチングユニットの給電設定	本ツールでは利用しません。
スイッチ種別	本ツールでは利用しません。
アカウント更新時刻	本ツールでは利用しません。
Web 認証証明書有効期限	本ツールでは利用しません。
Web 認証証明書確認時刻	本ツールでは利用しません。
前回アップロード時に選択した証明書のファイルパス	本ツールでは利用しません。
前回アップロード時に選択した秘密鍵のファイルパス	本ツールでは利用しません。
前回アップロード時に選択した中間 CA 証明書のファイルパス	本ツールでは利用しません。

[注意事項]

- ・表 3-2 共通フォーマットファイルの項目と本ツールの指定値で、[指定値]列が「本ツールでは利用しません。」になっている項目も、CSV フォーマットとしての列は必要ですので省略しないでください。
- ・AX-Networker's-Utility の他ツールでエクスポートした共通フォーマットファイルをインポートする際、表 3-2 共通フォーマットファイルの項目と本ツールの指定値で、[指定値]列に「必須指定項目です。」がある項目は、インポートの前にエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用し、インポート対象の共通フォーマットファイルへその項目の指定値を追加してください。
- ・共通フォーマットファイルをスプレッドシートアプリケーションで編集する場合は、各フィールドの値（例：グループ名や装置名）に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用しないでください。

グループ名や装置名等に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用すると、ツールから共通フォーマットファイルをインポートした際に、グループ名や装置名等が正しく表示されない、または、共通フォーマットファイルのインポートに失敗する場合があります。
- ・コンフィグレーションファイルの格納場所に Subversion のリポジトリを指定する場合は、グループ名に以下の文字を使用しないでください。

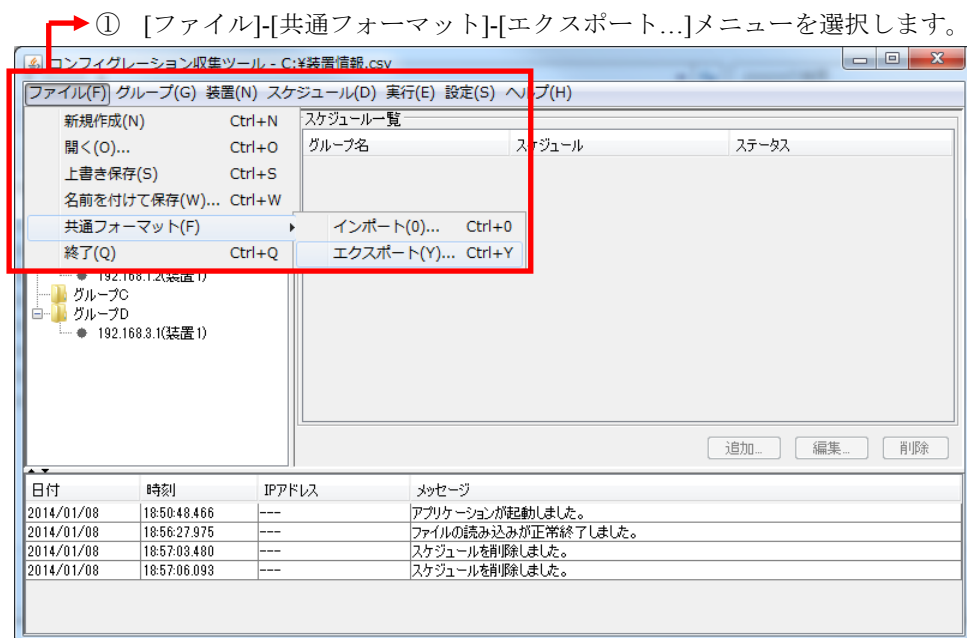
¥/:*?"<>|

- ・各フィールドの値として HTML タグやタブ文字を使用しないでください。HTML タグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されない場合があります。

(2) 装置情報を共通フォーマットファイルへエクスポートする

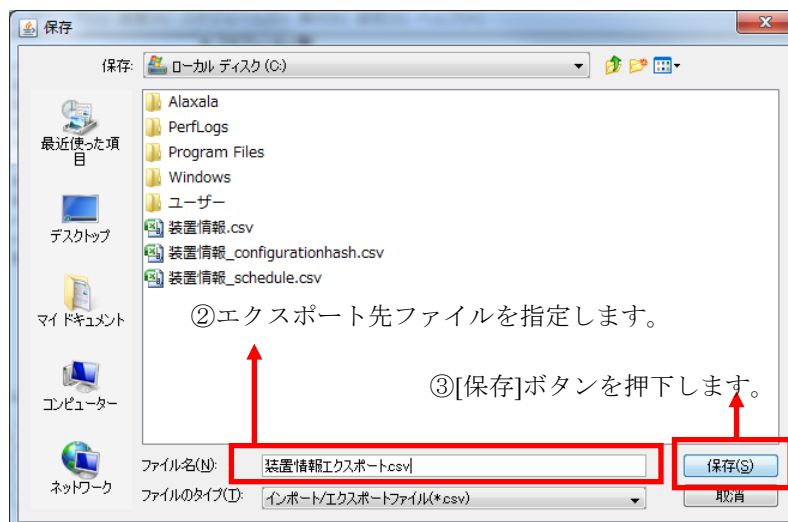
ツールへ登録した装置情報を共通フォーマットファイルへエクスポートするには、[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート...]メニューを選択し、ファイル選択画面を開きます。

図 3-11 装置情報のエクスポート（１）



ファイル選択画面が表示されたら、エクスポート先の共通フォーマットファイルの名前を指定し、〔保存〕ボタンを押します。

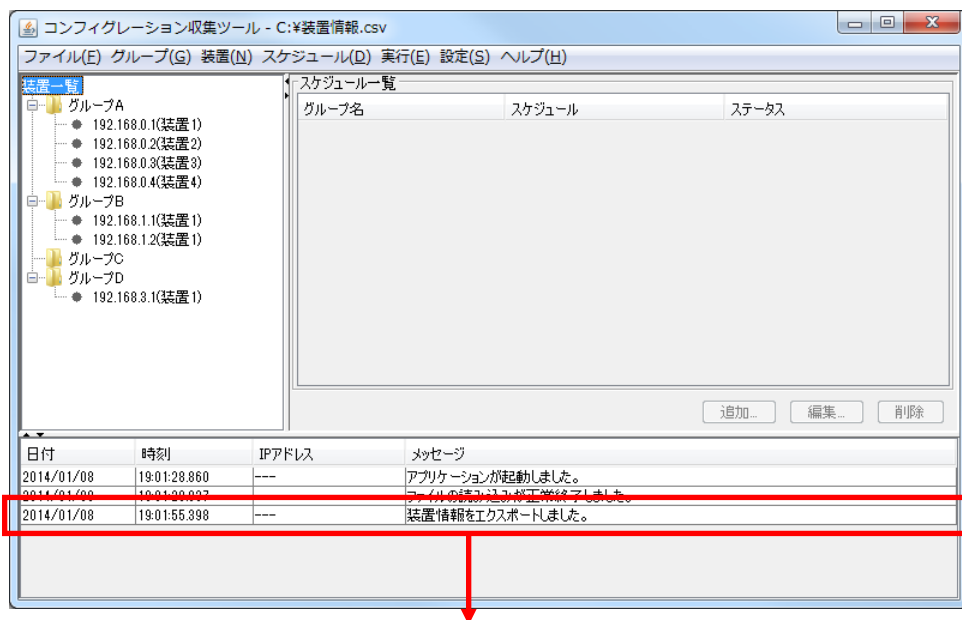
図 3-12 装置情報のエクスポート（２）



装置情報のエクスポートが成功すると、エクスポート成功のメッセージが表示され

ます。

図 3-13 装置情報のエクスポート（3）

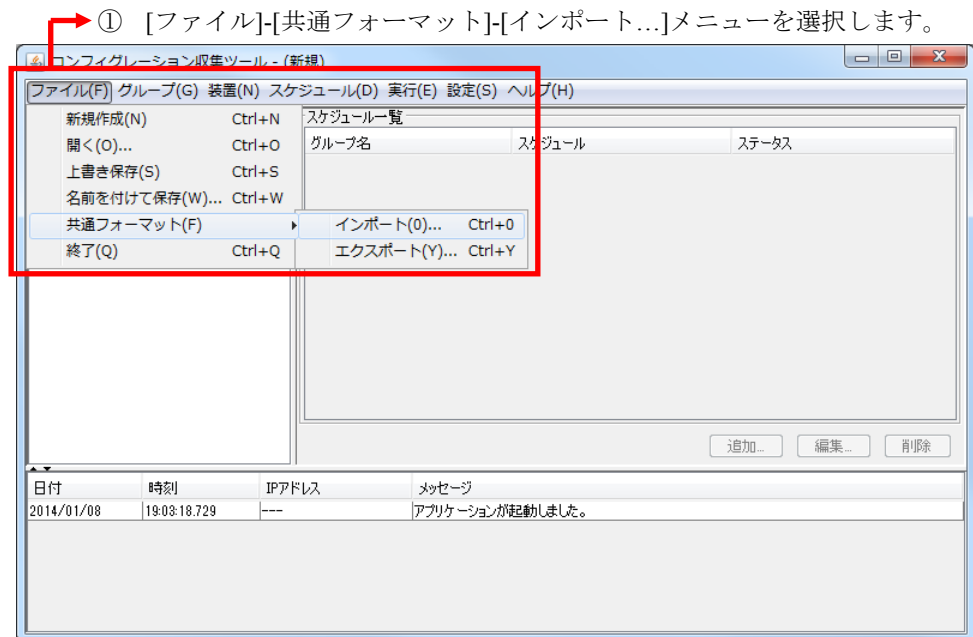


④「装置情報をエクスポートしました。」が表示されます。

(3) 装置情報を共通フォーマットファイルからインポートする

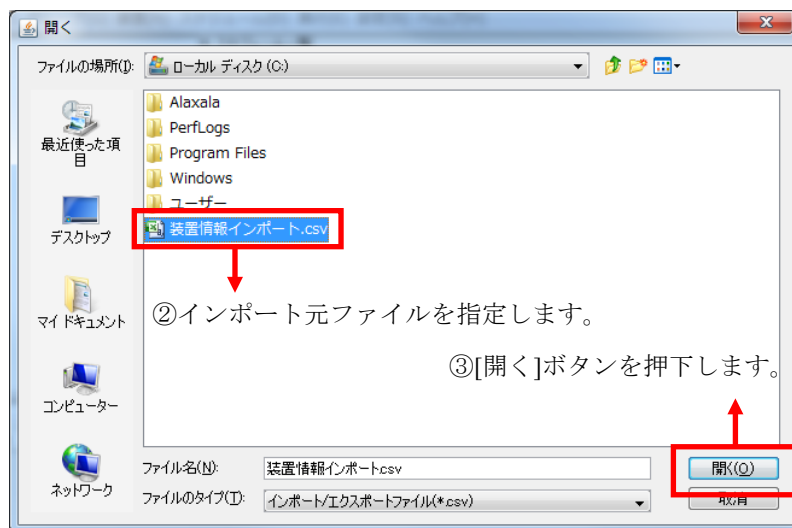
共通フォーマットファイルから装置情報をインポートするには,[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート...]メニューを選択し、ファイル選択画面を開きます。

図 3-14 装置情報のインポート (1)



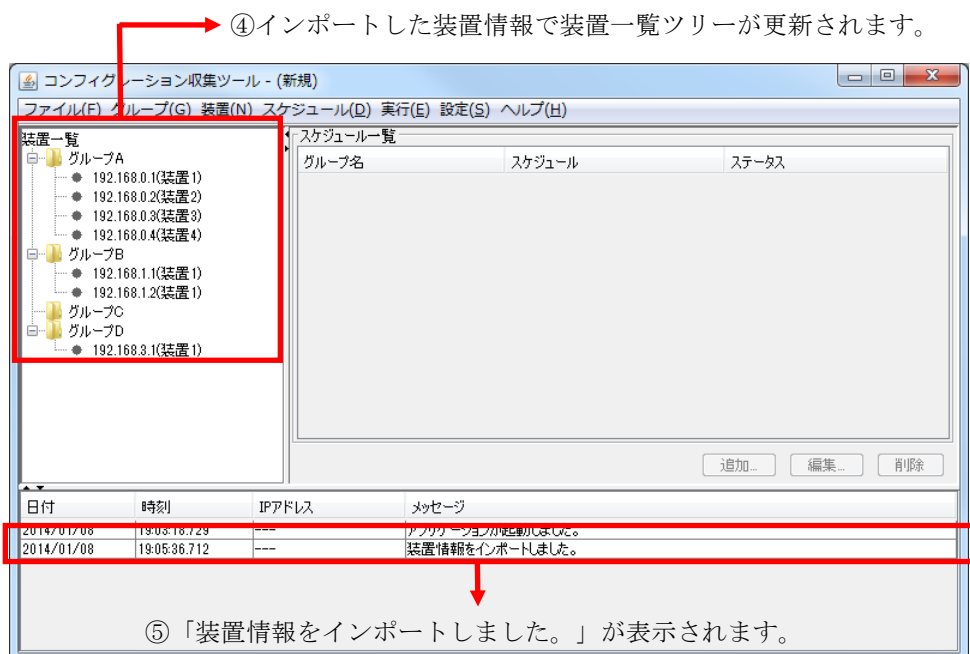
ファイル選択画面が表示されたら、インポート元の共通フォーマットファイルの名前を指定し、〔開く〕ボタンを押します。

図 3-15 装置情報のインポート（2）



装置情報のインポートが成功すると、装置一覧ツリーが更新され、インポート成功のメッセージが表示されます。

図 3-16 装置情報のインポート（3）



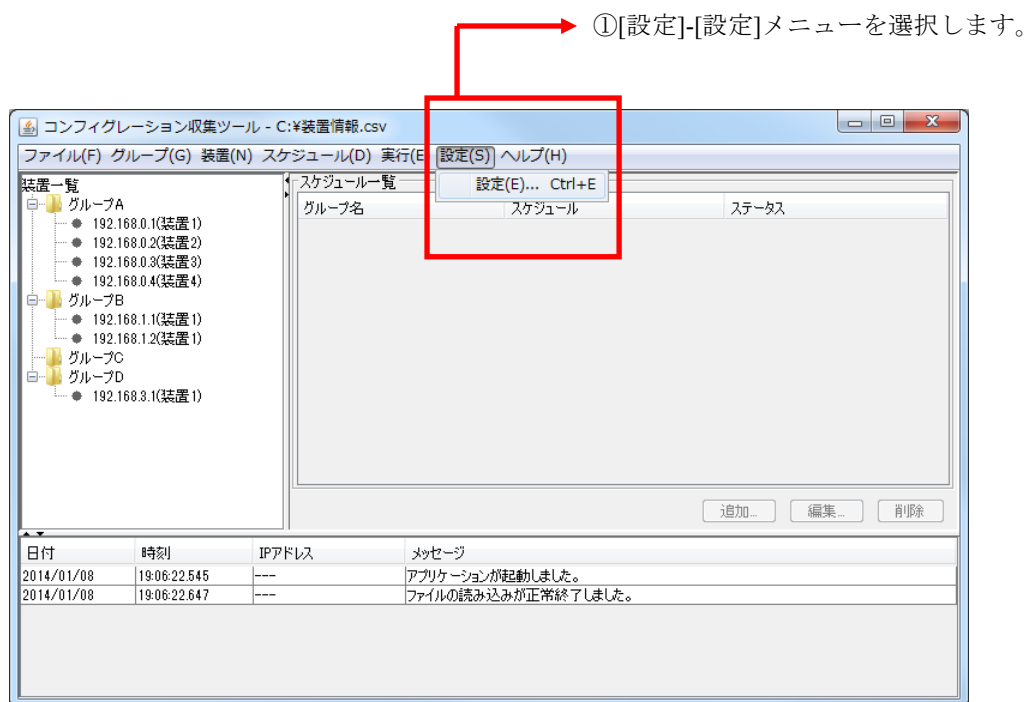
3.2 装置のコンフィグレーションファイルを収集する

この節では、コンフィグレーションファイルの収集を行う方法について説明します。コンフィグレーションファイルの収集方法には、即時でコンフィグレーションファイルの収集を行う方法と、スケジュールを設定し、予約でコンフィグレーションファイルの収集を行う方法とがあります。

3.2.1 コンフィグレーション格納場所を指定する

装置から取得したコンフィグレーションを格納する場所を指定するには、[設定]-[設定]メニューから、[ツール設定]画面を開きます。

図 3-17 コンフィグレーション格納場所の指定（1）

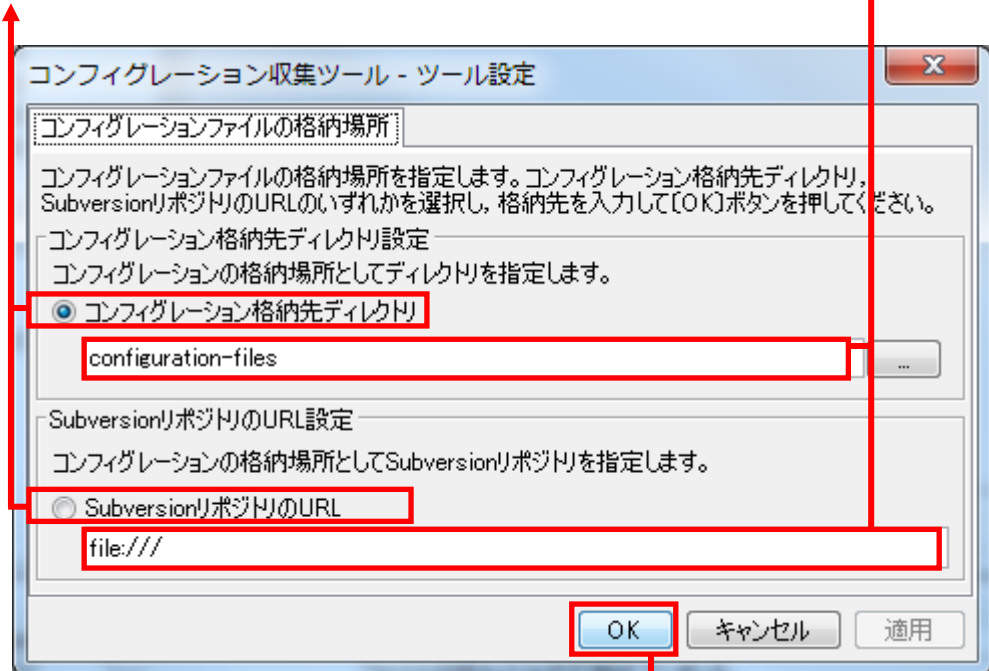


[ツール設定]画面を開いたら、まずコンフィグレーションファイル格納場所をディレクトリまたは Subversion リポジトリから選択します。コンフィグレーションファイル格納場所としてディレクトリを選択した場合にはコンフィグレーション格納先ディレクトリを指定し、Subversion リポジトリを選択した場合には、Subversion リポジトリの URL を指定します。指定できたら、[OK]ボタンを押下します。

図 3-18 コンフィグレーション格納場所の指定（2）

②コンフィグレーション格納場所を選択します。

③コンフィグレーション格納場所を指定します。



④[OK]ボタンを押下します。

装置から収集されたランニングコンフィグレーションは、コンフィグレーション格納場所へ、以下のファイル名で格納されます。

(1) コンフィグレーションの格納場所としてディレクトリを指定した場合

[コンフィグレーション格納先ディレクトリ]¥

[IP アドレス]-[YYYYMMDD][hhmmss].cfg

[コンフィグレーション格納先ディレクトリ]…

[ツール設定]画面で指定した、コンフィグレーション格納先ディレクトリ

[IP アドレス]…コンフィグレーション収集対象装置の IP アドレス

[YYYYMMDD]…コンフィグレーション収集日付

[hhmmss]…コンフィグレーション収集時刻

例：装置の IP アドレスが 192.168.0.1，コンフィグレーション収集日付および時刻が 2008 年 11 月 25 日午前 3 時 0 分 3 秒の場合，ファイル名は以下になります。

192.168.0.1-20081125030003.cfg

[注意事項]

障害復旧サポートツールと本ツールを併用している場合，障害復旧サポートツールのコンフィグレーションの格納先とは別のディレクトリを指定してください。

(2) コンフィグレーションの格納場所として Subversion リポジトリを指定した場合

[Subversion リポジトリの URL]/trunk/[グループ]/[IP アドレス].cfg

[Subversion リポジトリの URL]…

[ツール設定]画面で指定した，Subversion レポジトリの URL

[グループ]…コンフィグレーション収集対象装置が所属するグループの名前

[IP アドレス]…コンフィグレーション収集対象装置の IP アドレス

例 1：Subversion リポジトリの URL が file:///C:/localRepos/projectA，装置が所属するグループが GroupA，装置の IP アドレスが 192.168.0.1 の場合，Subversion レポジトリ内の格納先は以下になります。

file:///C:/localRepos/projectA/trunk/GroupA/192.168.0.1.cfg

例 2：Subversion リポジトリの URL が file:///C:/localRepos/projectA，装置が所属するグループがグループ A，装置の IP アドレスが 192.168.1.1 の場合，Subversion レポジトリ内の格納先は以下になります（URL エンコードされます）。

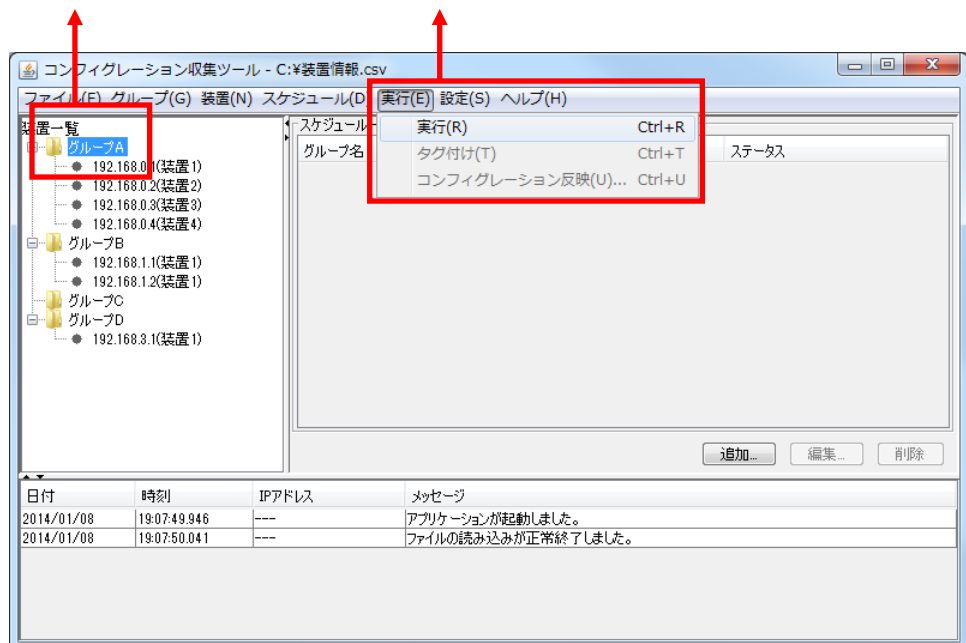
file:///C:/localRepos/projectA/trunk/%83%4F%83%8B%81%5B%83%76A/192.168.1.1.cfg

3.2.2 即時実行で収集する

コンフィグレーションファイルの収集の実施単位はグループです。グループに対してコンフィグレーションファイルの収集を即時実行するには、装置一覧ツリー上のグループを選択して[実行]-[実行]メニューを選択するか、装置一覧ツリー上のグループをマウスで右クリックして、表示されたポップアップメニューから実行を選択します。

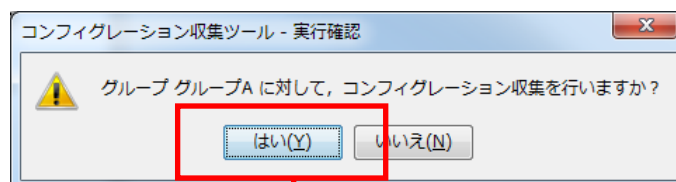
図 3-19 即時実行（１）

- ①グループを選択します。 ②[実行]-[実行]メニューを選択します。



実行確認ダイアログが表示されたら、[はい]ボタンを押下します。

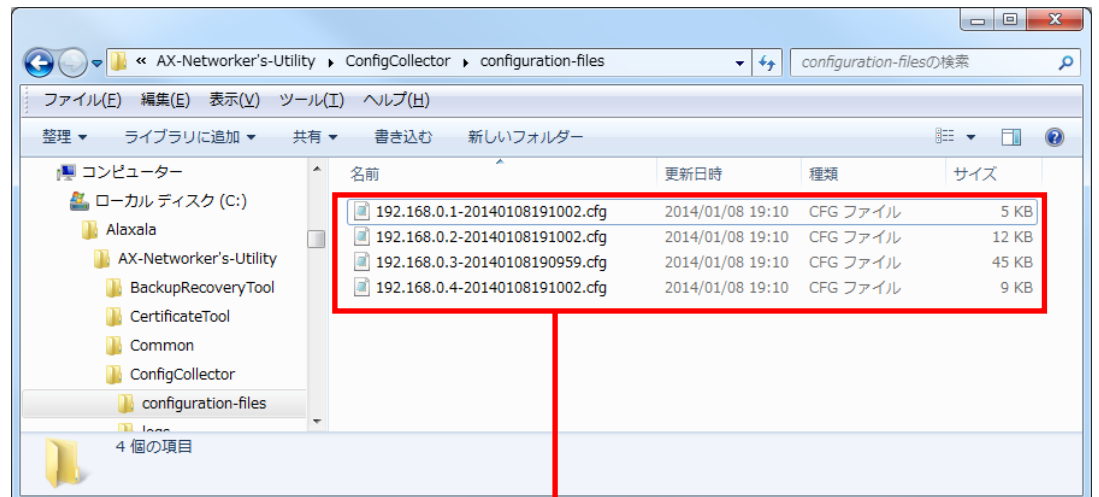
図 3-20 即時実行（２）



- ③[はい]ボタンを押下します。

装置からコンフィグレーションファイルの収集が行われ、「[3.2.1 コンフィグレーションファイル格納場所を指定する](#)」で指定した格納場所に、収集したファイルが格納されます。

図 3-21 即時実行（3）



④指定の格納場所に収集したファイルが格納されます（この例は、コンフィグレーション格納場所としてディレクトリを選択した場合）。

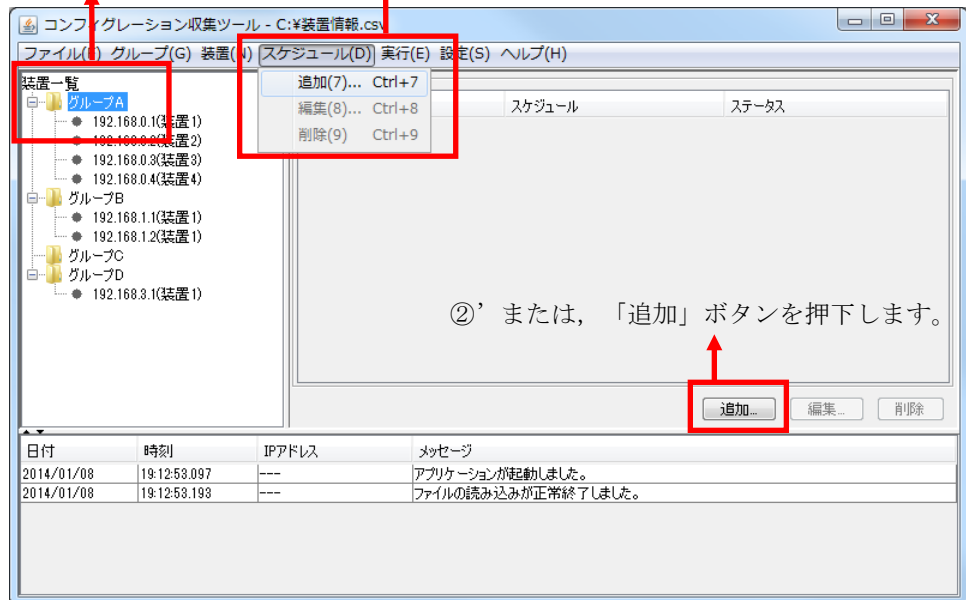
3.2.3 予約実行で収集する

スケジュールの登録を行うことで、指定した間隔（毎日、毎週、毎月）の定刻に装置からコンフィグレーションファイルを収集するといったように、あらかじめ決められたスケジュールに従って、コンフィグレーションファイルの収集を予約実行することができます。

スケジュール情報は1つのグループに対して1件のみ設定可能です。1つのグループに対して複数のスケジュールを設定することはできません。スケジュールの登録を行うには、装置一覧ツリー上でスケジュールを登録するグループを選択して、[スケジュール]-[追加]メニューを選択し、[スケジュール設定]画面を開きます。

図 3-22 予約実行（１）

- ①グループを選択します。 ②[スケジュール]-[追加]メニューを選択します。



[スケジュール設定]画面を開いたら,[スケジュール設定を有効にする]チェックボックスにチェックを入れ,[毎日],[毎週],[毎月]の3種類のスケジュールのいずれかを選択します。

・毎日のスケジュール

毎日1回,指定した時間にコンフィグレーションファイルの収集を行います。

「時間:」欄で時間を指定し,[OK]ボタンを押下してください。

・毎週のスケジュール

毎週,指定した曜日の,指定した時間にコンフィグレーションファイルの収集を行います。曜日は複数指定できます。※1

コンフィグレーションファイルの収集を行う曜日にチェックを入れ,「時間:」欄で時間を指定して,[OK]ボタンを押下してください。

・毎月のスケジュール

毎月1回,指定した日の,指定した時間にバックアップ収集を行います。日には,1日~28日と,「月末」を指定できます。※2

「日:」欄で日を,「時間:」欄で時間を指定して,[OK]ボタンを押下してください。

図 3-23 予約実行（2）

コンフィグレーション収集ツール - スケジュール設定

定期バックアップ収集のスケジュール設定を行います。[グループ指定]で対象のグループを指定し、[スケジュール設定]で、指定したグループに対する、定期バックアップ収集のスケジュール設定を行います。

グループ指定

*グループ グループA

スケジュール設定

☒ スケジュール設定を有効にする ③チェックを入れます。

毎日

毎日一回、指定した時間にバックアップ収集を行います。

☒ 毎日 時間: 22時 00分 ⑤時間を指定します。

毎週

毎週、指定した曜日の、指定した時間にバックアップ収集を行います。
曜日は複数指定できます。

☐ 毎週 ☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土 ☐ 日

時間: 00時 00分

毎月

毎月一回、指定した日の、指定した時間にバックアップ収集を行います。

☐ 毎月 日: 月末 ⑥OK ボタンを押下します。

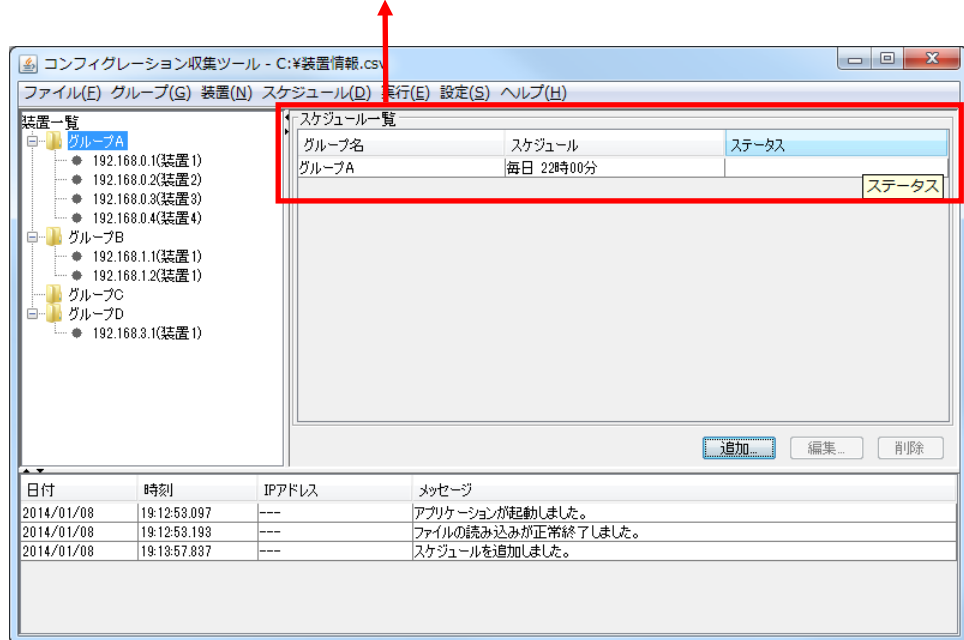
時間: 00時 00分

OK キャンセル

④「毎日」「毎週」「毎月」のスケジュールのいずれかを選択します。ここでは「毎日」のスケジュールを選択しています。

図 3-24 予約実行（3）

⑦スケジューラ一覧にスケジュールが追加されます。



以上で、コンフィグレーションファイル収集の予約実行の設定は完了です。ここでの例では、この後 22 時 00 分になった時点で、グループ A に属する 4 台の装置に対してコンフィグレーションファイルの収集が自動で実行され、その後も、毎日 22 時 00 分にコンフィグレーションファイルの収集が自動で実行されます。

なお、コンフィグレーションファイル収集の予約実行は、ツールを終了すると実施されません。コンフィグレーションファイル収集の予約実行を行っている期間中は、ツールを終了せず起動させたままの状態にしておいてください。

※1 曜日ごとに時間を変えて指定することはできません。

※2 毎月のスケジュールで、複数の日を指定することはできません。

3.2.4 予約実行による収集を解除する

予約実行によるコンフィグレーションファイルの収集を解除する方法には、登録されているスケジュールを無効にする方法と、登録されているスケジュールを削除する方法との2通りがあります。

(1) スケジュールを無効にする

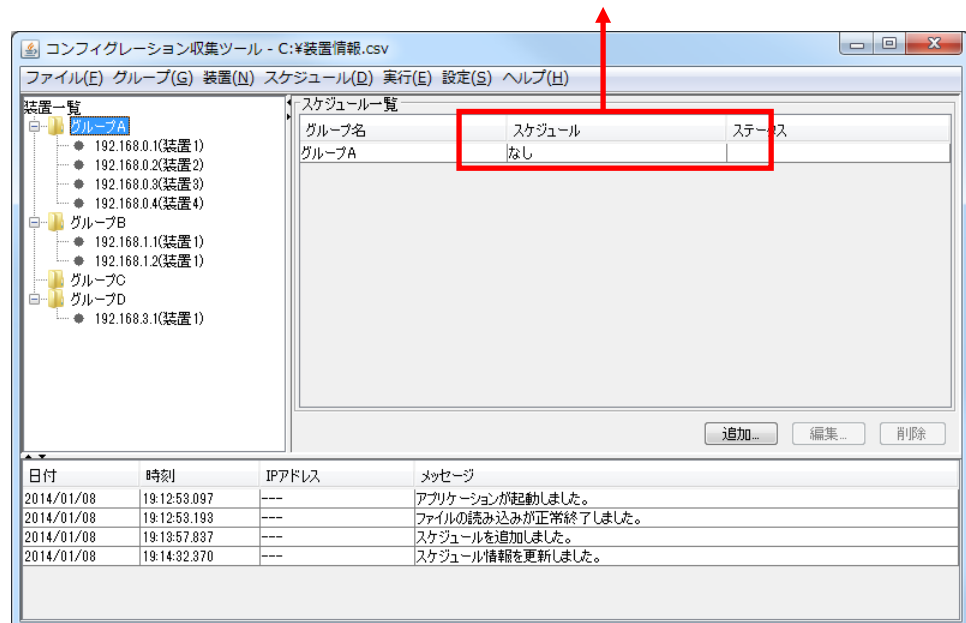
登録されているスケジュールを無効にするには、スケジュール一覧で、無効にしたいスケジュールを選択した後、[スケジュール]-[編集]メニューを実行し、[スケジュール設定]画面を開きます。

スケジュール設定画面を開いたら、「スケジュール設定を有効にする」チェックボックスからチェックを外し、[OK]ボタンを押下します。

無効になったスケジュールは、スケジュール一覧の[スケジュール]列上で「なし」と表示されます。無効になったスケジュールは、定刻になってもコンフィグレーションファイル収集の予約実行の動作を行いません。

図 3-25 スケジュールの無効化

無効になったスケジュールは「なし」が表示されます。



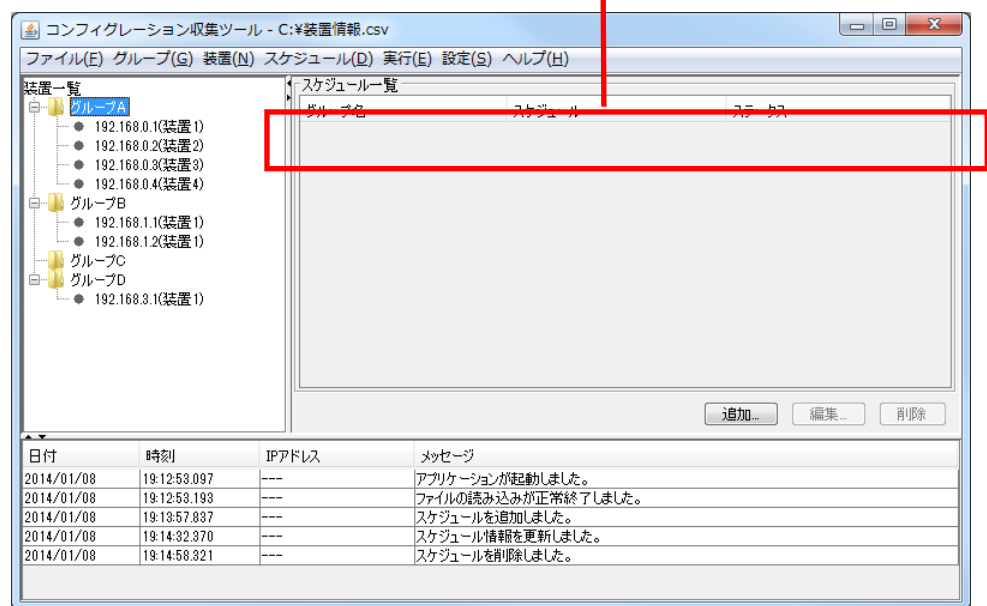
(2) スケジュールを削除する

登録されているスケジュールを削除するには、スケジュール一覧で、削除したいスケジュールを選択した後、[スケジュール]-[削除]メニューを実行します。

[削除確認]画面を開いたら、[はい]ボタンを押下します。

図 3-26 スケジュールの削除

登録されていたスケジュールがスケジュール一覧から削除されます。



3.2.5 スケジュール情報ファイルからスケジュールを登録する

「[3.1.2 装置情報ファイルから登録する](#)」では、グループ、および、装置の情報を定義した装置情報ファイルを用意して、ツールに読み込ませる方法について説明しました。ここでは、スケジュール情報ファイルを用意して、装置情報ファイルと併せて読み込みを行う方法について説明します。

(1) スケジュール情報ファイル

スケジュール情報ファイルは、[ファイル]-[名前を付けて保存]、または、[ファイル]-[上書き保存]メニューを実行した際に、装置情報ファイルのファイル名(拡張子.csvを除いた部分)に「_schedule」を付与したファイル名で、装置情報ファイルと併せて保存される、ツール上のスケジュール情報を記録したファイルです。例えば、装置情報ファイル名が「node.csv」ならば、対応するスケジュール情報ファイルは、

「node_schedule.csv」になります。

スケジュール情報ファイルは、直接、[ファイル]-[開く]メニューからファイルを開くことはできません（ファイル名に「_schedule」が含まれるファイルは、ファイル選択画面に表示されず、選択することができません）。装置情報ファイルを読み込んだ際に、同じディレクトリに、装置情報ファイルと同名のスケジュール情報ファイルも存在していれば、併せて読み込まれます。つまり、スケジュール情報ファイルは、直接編集したり、作成したりするといったことをしなければ、普段は、存在を意識することのないファイルです。

スケジュール情報ファイルのフォーマットは、装置情報ファイル同様、CSV形式のテキストファイルであり、装置情報ファイルと同様に、テキストエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用して作成し、ツールに読み込ませることができます。ただし、上述したように、スケジュール情報ファイルの読み込みは、装置情報ファイルの読み込み操作によって行います。

スケジュール情報ファイルの例を下記表に示します。

図 3-27 スケジュール情報ファイル

グループ名,スケジュール有効,繰り返し期間,毎日時間,毎日分,毎週月曜有効,毎週火曜有効,毎週水曜有効,毎週木曜有効,毎週金曜有効,毎週土曜有効,毎週日曜有効,毎週時間,毎週分,毎月日,毎月時間,毎月分	1 行目 (ヘッダ)
グループ A,true,毎日,22,0,false,false,false,false,false,false,0,0,0,0,0	
グループ B,true,毎週,0,0,true,false,true,false,true,false,false,19,0,0,0,0	
グループ C,true,毎月,0,0,false,false,false,false,false,false,false,0,0,1,16,0	

- ・ 1 行目にはヘッダ情報を記述し、2 行目以降にグループのスケジュール情報を記述します。※1※2
- ・ 各指定値が不正(範囲外)な場合、スケジュール情報ファイル読み込み時にエラーとなります。
- ・ スケジュール情報の各項目は、すべて指定が必須であり、省略することはできません。各項目の指定値は次表の通りです。

表 3-3 スケジュール情報ファイルの指定値

項目	指定値
グループ名	スケジュール対象のグループの名前を1～32文字で指定します。
スケジュール有効	このスケジュールを有効にするか無効にするかを指定します。 • true…スケジュールが有効 • false…スケジュールが無効
繰り返し期間	コンフィグレーションを収集する間隔を指定します。 • 毎日…毎日指定の時刻に収集 • 毎週…毎週指定の曜日・時刻に収集 • 毎月…毎月指定の日・時刻に収集
毎日時間	繰り返し期間が毎日の場合、コンフィグレーション収集を実行する時刻の時間を0～23の値で指定します。 繰り返し期間が毎日以外の場合には0を指定してください。
毎日分	繰り返し期間が毎日の場合、コンフィグレーション収集を実行する時刻の分を0～55で指定します。設定可能な値は5分単位になります。 繰り返し期間が毎日以外の場合には0を指定してください。
毎週月曜有効	繰り返し期間が毎週の場合、コンフィグレーション収集を実行する曜日かどうかを指定します。 • true…収集を実行する曜日 • false…収集を実行しない曜日 繰り返し期間が毎週以外の場合にはfalseを指定してください。 繰り返し期間が毎週の場合は少なくとも1つはtrueに指定してください。
毎週火曜有効	
毎週水曜有効	
毎週木曜有効	
毎週金曜有効	
毎週土曜有効	
毎週日曜有効	
毎週時間	繰り返し期間が毎週の場合、コンフィグレーション収集を実行する時刻の時間を0～23の値で指定します。 繰り返し期間が毎週以外の場合には0を指定してください。
毎週分	繰り返し期間が毎週の場合、コンフィグレーション収集を実行する時刻の分を0～55で指定します。設定可能な値は5分単位になります。 繰り返し期間が毎週以外の場合には0を指定してください。

毎月日	繰り返し期間が毎月の場合、コンフィグレーション収集を実行する日を 0～28 の値で指定します。0 は月末を表す値です。 繰り返し期間が毎月以外の場合には0を指定してください。
毎月時間	繰り返し期間が毎月の場合、コンフィグレーション収集を実行する時刻の時間を 0～23 の値で指定します。 繰り返し期間が毎月以外の場合には0を指定してください。
毎月分	繰り返し期間が毎月の場合、コンフィグレーション収集を実行する時刻の分を 0～55 で指定します。設定可能な値は 5 分単位になります。 繰り返し期間が毎月以外の場合には0を指定してください。

※1 1 行目（ヘッダ情報）は省略できませんが、ヘッダ情報の記述内容は任意です。（図 3-21 と同様の記述にする必要はありません。）

※2 スケジュール情報ファイルには空行（改行だけの行）を記述できません。記述した場合にはエラーになります。

[装置情報ファイルとの整合性に関する注意事項]

- ・スケジュール情報は、装置情報ファイル上に存在しないグループに対して定義しないでください。このような定義があるスケジュール情報ファイルを読み込むと、ツール上からスケジュール情報を正常に扱えなくなります。（逆のケース、つまり、スケジュール情報が未定義のグループを、装置情報ファイルに定義することは問題ありません。）
- ・スケジュール情報は、1 つのグループに対して 1 件のみ設定可能です。同一のグループに対して、スケジュール情報を複数登録しないでください。このような定義があるスケジュール情報ファイルを読み込むと、ツール上からスケジュール情報を正常に扱えなくなります。

[その他の注意事項]

- ・文字列「_schedule」は、スケジュール情報ファイルのファイル名に予約されているため、装置情報ファイル名に文字列「_schedule」を含めることはできません。
- ・グループ数がそれほど多くない場合（数グループ程度以内の場合）は、ツールからの操作でスケジュールを登録することをお勧めします。（ツールからの操作で

スケジュールを登録の方がより簡単です。)

- スケジュール情報ファイルの各フィールドの値として HTML タグやタブ文字を使用しないでください。HTML タグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されない場合があります。

(2) 作成したスケジュール情報ファイルを読み込む

スケジュール情報ファイルの読み込みは、装置情報ファイルの読み込み操作によって行います。用意したスケジュール情報ファイルを、対応する装置情報ファイルと同じディレクトリに配置し、「[3.1.2 装置情報ファイルから登録する \(2\)作成した装置情報ファイルを読み込む](#)」に記載の手順で、装置情報ファイルの読み込みを行ってください。

3.3 タグ名を付けてコンフィグレーションファイルを保存する

この節では、収集した最新のコンフィグレーションファイルにタグ名およびコメントを付けて保存する方法について説明します。これを行うには、コンフィグレーション格納場所として Subversion リポジトリを指定している必要があります。コンフィグレーション格納場所の指定については、「[3.2.1 コンフィグレーション格納場所を指定する](#)」を参照してください。

装置の増減設などの構成変更で、1 台または複数台の装置のコンフィグレーションを変更した場合、変更した一揃いのコンフィグレーションに対して、タグ名およびコメントを付けて保存できます。また、保存したコンフィグレーションの一揃いは、Subversion クライアントからそのタグ名を指定して取り出すことが可能です。

それでは、収集した最新のコンフィグレーションファイルにタグ名およびコメントを付けて保存する手順を説明します。

まず、タグ名およびコメントを付けて保存する、最新のコンフィグレーションを収集します。収集方法は即時実行、スケジュール実行のいずれでもかまいません。

次に、収集した最新コンフィグレーションに対し、タグ付けを行います。[実行]-[タグ付け]メニューを選択し、[タグ付け]画面を表示します。

①[実行]-[タグ付け]メニューを選択します。

図 3-28 タグ付け（1）

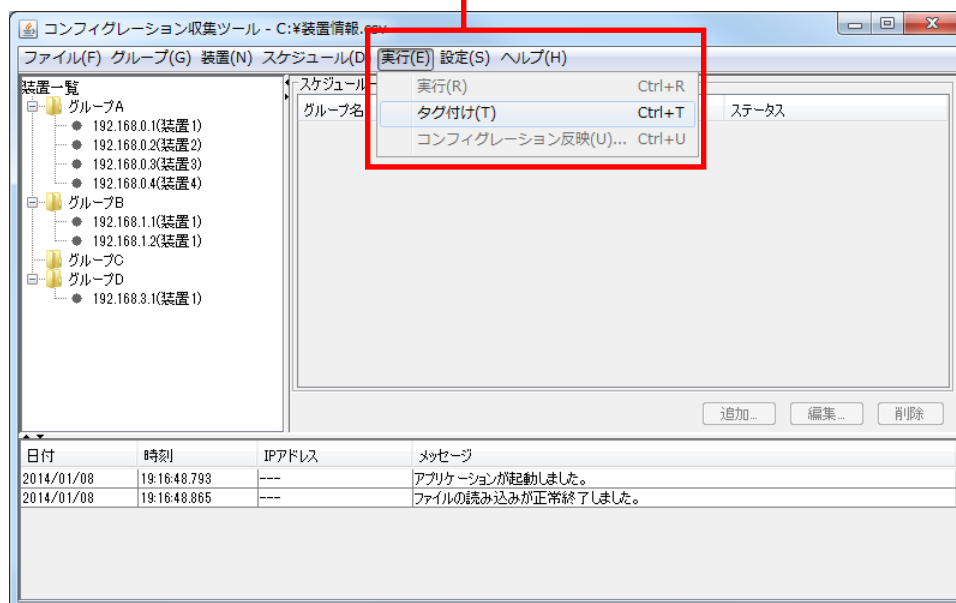
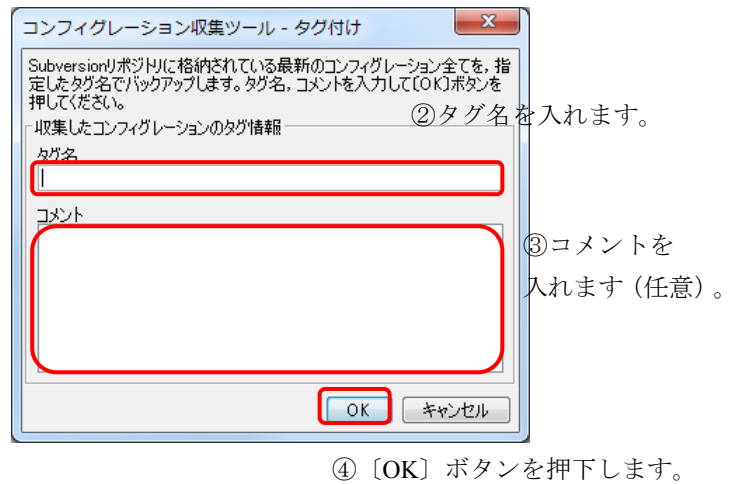


図 3-29 タグ付け（２）



[タグ付け]画面では、タグ名（1～32 文字の文字列*1）およびコメント（1024 文字以下の文字列）を入力して、[OK] ボタンを押下します。キャンセルするには「キャンセル」ボタンを押下します。

*1…文字として半角の ¥, /, :, *, ?, ", <, >, | は含められません。また、半角空白のみの文字列も指定できません。

3.4 コンフィグレーションを反映する

この節では、過去に収集したコンフィグレーションファイルを装置に反映して、装置の設定をコンフィグレーション収集時点に戻す方法や、他の装置用のコンフィグレーションファイルを編集し、別の装置へ反映する方法について説明します。これを行うには、コンフィグレーション格納場所としてディレクトリを指定していることが必要です。コンフィグレーション格納場所の指定については、「[3.2.1 コンフィグレーション格納場所を指定する](#)」を参照してください。

コンフィグレーションの反映では、指定したコンフィグレーションファイルの内容を装置のランニングコンフィグレーションおよびスタートアップコンフィグレーションの両方へ反映します。

[注意事項]

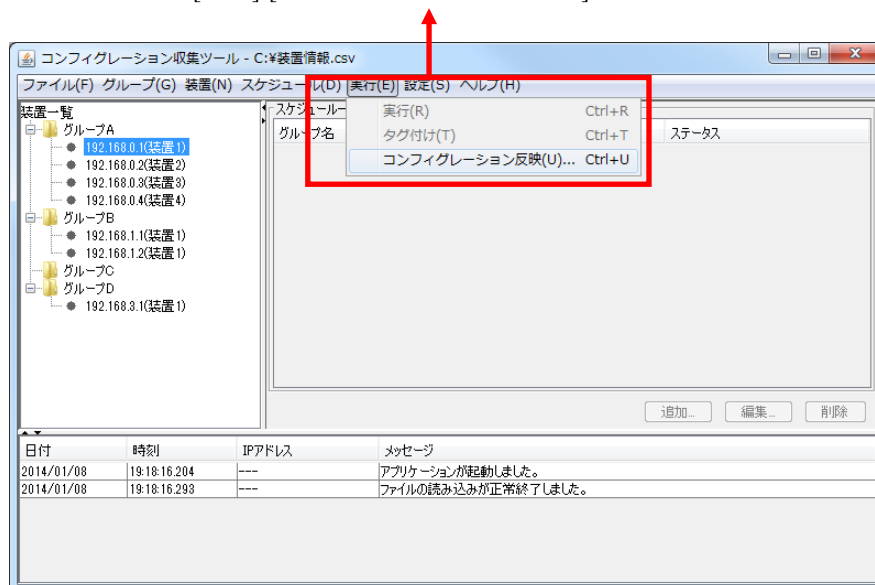
コンフィグレーションの反映を行うと、装置上で一時的な通信断が発生します。コンフィグレーション反映時の注意事項の詳細については、「[1.4 注意事項](#)」の「[\(5\) コンフィグレーション反映操作時の注意事項](#)」を参照してください。

3.4.1 反映するコンフィグレーションファイルを選択する

まず、装置へ反映するコンフィグレーション内容を持つ、コンフィグレーションファイルを選択します。そのためには、コンフィグレーションを反映したい装置を装置一覧ツリーで選択し、ツールのメインメニューから[実行]-[コンフィグレーション反映]メニューを選択するか、または装置一覧ツリーの装置ノードをマウスカーソルで右クリックし、表示されたポップアップメニューから[コンフィグレーション反映]メニューを選択します。

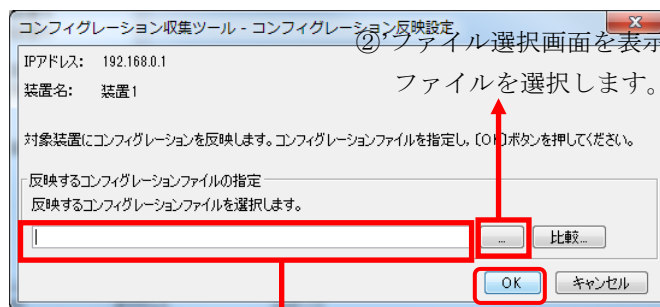
図 3-30 コンフィグレーション反映（１）

①[実行]-[コンフィグレーション反映]メニューを選択します。



その結果，「コンフィグレーション反映設定」画面が表示されます。

図 3-31 コンフィグレーション反映（２）



③「OK」ボタンを押下します。

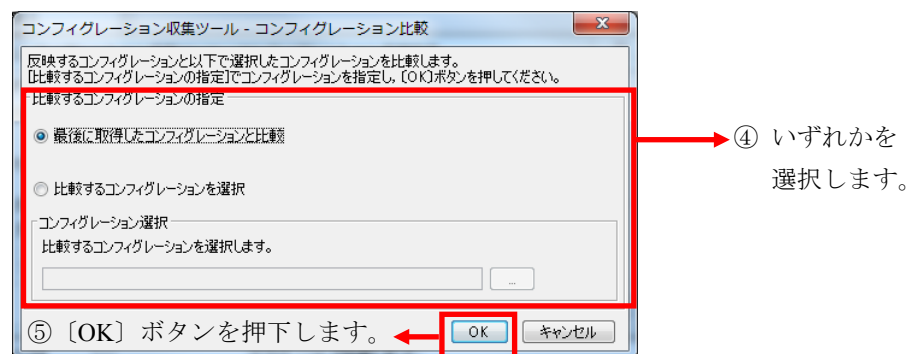
②コンフィグレーションファイルのパス名を入力します。

[反映するコンフィグレーションファイルの指定]の[反映するコンフィグレーションファイルを選択します。]テキストボックスへコンフィグレーションファイルのパス名を入力するか， [...] ボタンを押下してファイル選択画面を表示し，反映するコンフィグレーションファイルを選択して，「OK」ボタンを押下してください。

3.4.2 反映するコンフィグレーションファイルを比較する

選択したコンフィグレーションファイルの内容を、最後に取得したコンフィグレーションファイルや任意のコンフィグレーションファイルの内容と比較できます。コンフィグレーションファイルの内容を比較するには、[コンフィグレーション反映設定] 画面で [比較...] ボタンを押下し、[コンフィグレーション比較] 画面を表示します。

図 3-32 コンフィグレーション反映（3）



最後に取得したコンフィグレーションとの比較を行いたい場合には、[比較するコンフィグレーションの指定]で[最後に取得したコンフィグレーションと比較]をチェックし、[OK] ボタンを押下します。また、任意のコンフィグレーションファイルとの比較を行いたい場合には、[比較するコンフィグレーションの指定]で[比較するコンフィグレーションを選択]をチェックし、さらに[コンフィグレーション選択]の[比較するコンフィグレーションを選択します。]テキストボックスへコンフィグレーションファイルのパス名を入力するか、[...] ボタンを押下してファイル選択画面を表示し、比較するコンフィグレーションファイルを選択して、[開く] ボタンを押下してください。その後、[OK] ボタンを押下します。

上記手順で [OK] ボタンを押下すると、差分比較アプリケーションが起動し、「装置へ反映するコンフィグレーション」と「比較するコンフィグレーション」の差分比較結果が表示されます。

3.4.3 コンフィグレーションを装置へ反映する

〔コンフィグレーション反映設定〕画面で反映対象のコンフィグレーションファイルを選択し、〔OK〕ボタンを押下すると、選択したコンフィグレーションファイルのチェックを行った上で、実行確認画面が表示されます。

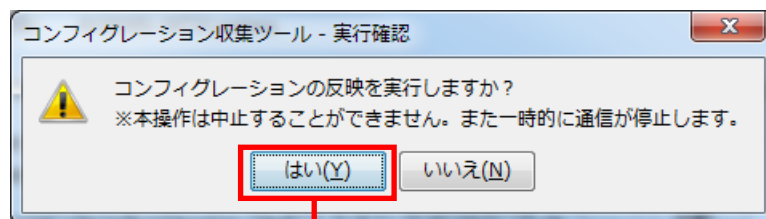
コンフィグレーションファイルのチェックでは、以下の2点をチェックします。

- ・選択したコンフィグレーションが過去このツールで収集されたものかどうか
- ・選択したコンフィグレーションが過去このツールで収集されたものの場合、収集時点からその内容が変更されていないか

このチェック結果を、実行確認画面のメッセージで表示しますので、その内容を確認し、装置へコンフィグレーションを反映して良い場合、〔はい〕ボタンを押下します。装置へコンフィグレーションを反映したくない場合、〔いいえ〕ボタンを押下します。

選択したコンフィグレーションが本ツールで収集され、かつ収集時から内容が変更されていない場合、以下の実行確認画面が表示されます。

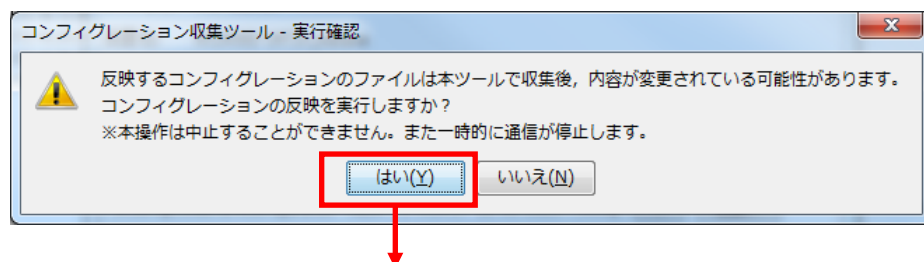
図 3-33 コンフィグレーション反映（5）



⑥ 〔はい〕ボタンを押下します。

選択したコンフィグレーションが本ツールで収集され、かつ収集時から内容が変更されている場合、以下の実行確認画面が表示されます。

図 3-34 コンフィグレーション反映（6）

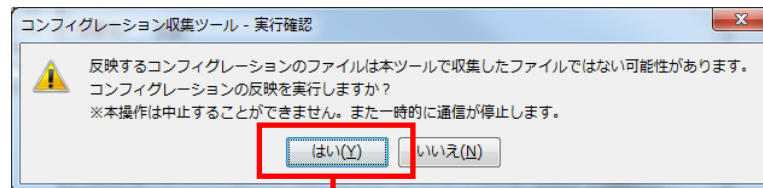


⑥' 〔はい〕ボタンを押下します。

選択したコンフィグレーションが本ツールの過去バージョン

(AX-Networker's-Utility 7.0 以前に含まれる本ツール) または本ツール以外によって収集または生成されている場合、以下の実行確認画面が表示されます。

図 3-35 コンフィグレーション反映 (7)



⑥” [はい] ボタンを押下します。

実行確認画面で [はい] ボタンを押下した場合には実行中画面を表示し、まず、反映実行前の装置のランニングコンフィグレーションとスタートアップコンフィグレーションを収集し、以下に配置します。

- ・ 反映実行前の装置のランニングコンフィグレーション

<TARGETDIR>%ConfigCollector%temp%running.cfg

- ・ 反映実行前の装置のスタートアップコンフィグレーション

<TARGETDIR>%ConfigCollector%temp%startup.cfg

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

その後、選択したコンフィグレーションファイルを装置のランニングコンフィグレーションおよびスタートアップコンフィグレーションへ反映します。反映操作が成功すると、次の画面が表示されます。

コンフィグレーション収集ツール - C:\Program Files\NetSight\装置情報.csv

ファイル(E) グループ(G) 装置(N) スケジュール(D) 実行(E) 設定(S) ヘルプ(H)

装置一覧

- グループA
 - 192.168.0.1(装置1)
 - 192.168.0.2(装置2)
 - 192.168.0.3(装置3)
 - 192.168.0.4(装置4)
- グループB
 - 192.168.1.1(装置1)
 - 192.168.1.2(装置1)
- グループC
- グループD
 - 192.168.3.1(装置1)

スケジュール一覧

グループ名	スケジュール	ステータス
-------	--------	-------

追加... 編集... 削除

日付	時刻	IPアドレス	メッセージ
2014/01/08	19:18:16.204	---	アプリケーションが起動しました。
2014/01/08	19:18:16.293	---	ファイルの読み込みが正常終了しました。
2014/01/08	19:26:08.186	192.168.3.1	コンフィグレーション反映を開始します。
2014/01/08	19:26:24.926	192.168.0.1	コンフィグレーション反映が正常終了しました。

コンフィグレーションの反映に失敗した場合には、必要に応じて、反映実行前のランニングコンフィグレーションおよびスタートアップコンフィグレーションを利用してください。

4. ツールの設定ファイル

この章では、コンフィグレーション収集ツールの設定ファイルについて説明します。

[4.1 設定ファイル](#)

[4.2 設定項目一覧](#)

4.1 設定ファイル

コンフィグレーション収集ツールは、起動時に設定ファイルの読み込みを行います。従って、コンフィグレーション収集ツールを起動する前に、設定ファイルの内容を変更することで、ツールの動作を変更することができます。

設定ファイルは以下に格納されています。

<TARGETDIR>%ConfigCollector%\ConfigCollector.properties

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

4.2 設定項目一覧

コンフィグレーション収集ツールの設定ファイルに定義されている項目には、以下があります。なお、本表で記載されていない設定項目は、編集しないでください。

設定ファイルの編集はツールが起動していない時に行います。ツール起動中に設定ファイルの設定項目を編集した場合には、[ツール設定] 画面で[OK] ボタンを押下した時、およびツールを終了した時に上書きされますので、ご注意ください。

表 4-1 コンフィグレーション収集ツールの設定項目一覧

項番	項目	意味
1	LOG_FILE_NAME	動作ログファイルのファイル名です。※1※2※3 デフォルトは Table.log です。
2	LOG_FILE_SIZE	動作ログファイルのサイズです[単位：MB]。 デフォルトは 8[MB]です。半角数値 0～16 を指定可能です。0 を指定した場合はログが出力されません。上記以外の場合は 10[MB]で動作します。
3	LOG_KEEP_AMOUNT	動作ログファイルは、ファイルサイズが LOG_FILE_SIZE で設定しているサイズに達すると、タイムスタンプが付与されたファイル名にリネームされて退避されますが、本項目は、動作ログファイル数の上限を定義します[単位：個]。ディレクトリ内に退避され蓄積したファイル数が、本項目の定義値に達すると、次回ログ退避時には、最古の退避ファイルが上書きされます。 デフォルトは 50[個]です。半角数値 1～50 を指定可能です。上記以外の場合はデフォルト値で動作します。
4	LOG_OUTPUT_DIR	動作ログ出力先ディレクトリです。 デフォルトは table-log です。※1※2※3
5	TRACE_LOG_FILE_NAME	デバッグログファイルのファイル名です。 デフォルトは Trace.log です。※1※2※3

6	TRACE_LOG_FILE_SIZE	デバッグログファイルのサイズです[単位：MB]。 デフォルトは 8[MB]です。半角数値 0～16 を指定可能です。0 を指定した場合はログが出力されません。上記以外の場合は 10[MB]で動作します。
7	TRACE_LOG_KEEP_AMOUNT	デバッグログファイルは、ファイルサイズが LOG_FILE_SIZE で設定しているサイズに達すると、タイムスタンプが付与されたファイル名にリネームされて退避されますが、本項目は、デバッグログファイル数の上限を定義します[単位：個]。ディレクトリ内に退避され蓄積したファイル数が、本項目の定義値に達すると、次回ログ退避時には、最古の退避ファイルが上書されます。 デフォルトは 50[個]です。半角数値 1～50 を指定可能です。上記以外の場合はデフォルト値で動作します。
8	TRACE_LOG_LEVEL	プログラムの中で指定したデバッグログの出力レベルがこの項目で指定した値と同じか高い場合にログを出力します。ログ出力レベルは高い順に次の 3 つがあります。 ・ ERROR ・ INFO ・ DEBUG デフォルトは INFO です。
9	TRACE_LOG_OUTPUT	デバッグログを出力するかどうかを指定します。 ON に設定するとログが出力され、OFF に設定するとログは出力されません。 デフォルトは ON です。
10	TRACE_LOG_OUTPUT_DIR	デバッグログ出力先ディレクトリです。 デフォルトは trace-log です。※1※2※3
11	config.difference.detection	コンフィグレーション収集時、前回収集したコンフィグレーションと比較して内容が変更されているかを検知するかどうかを指定します。本設定

		項目は、[ツール設定]画面でコンフィグレーション格納場所として Subversion リポジトリが選択されている場合には無視されます。 ON に設定すると前回収集と今回収集のコンフィグレーションを比較し、内容が変更されている場合のみ今回収集のコンフィグレーションを保存します。内容が変更されていない場合にはコンフィグレーションを保存しません。OFF に設定すると前回収集と今回収集のコンフィグレーションの比較は行わずに、今回収集したコンフィグレーションファイルを保存します。 デフォルトは OFF です。
12	config.diff.command	反映するコンフィグレーションと選択した任意のコンフィグレーションを比較する際に起動する、差分比較ツールのコマンドライン文字列を指定します。コマンドライン文字列の形式については、利用する差分比較ツールのマニュアルを参照してください。また、コマンドライン文字列には以下の3つを必ず含めてください。 <DIFFCMDPATH>…利用する差分比較ツールのプログラムのフルパスを指定します。空白を含む場合にはダブルクォート文字で囲む必要があります。※2 %LEFT_FILE%…比較対象として選択した任意のコンフィグレーションファイルのフルパスが本ツールから渡されます。 %RIGHT_FILE%…反映するコンフィグレーションファイルのフルパスが本ツールから渡されます。 上記の3つを含めたコマンドライン文字列の書式は以下になります。 <DIFFCMDPATH> %LEFT_FILE% %RIGHT_FILE% コマンドライン文字列で、

		<DIFFCMDPATH>, %LEFT_FILE%, %RIGHT_FILE% の他にコマンドラインオプションが必要な場合には追加してください。 デフォルトでは Microsoft Corporation の差分比較ツールである windiff 用のコマンドライン文字列になっています。このコマンドライン文字列の実際の指定例は以下です。 "C¥¥¥¥Program Files¥¥¥¥Support Tools¥¥¥¥windiff.exe" %LEFT_FILE% %RIGHT_FILE%
13	common.appinstcheck.port	本ツールが既に起動しているかどうかを確認する際に利用する TCP ポート番号です。5001～65535 の範囲から指定します。デフォルトは 9478 です。本ツールのデフォルトである TCP ポート 9478 が既に使用されており、別の TCP ポート番号へ変える場合、他のアプリケーションで利用している TCP ポート番号と重ならないように設定してください。他のアプリケーションが使用している TCP ポート番号を確認するには、コマンドプロンプト上で”netstat -an”コマンドを実行して、使用しているポートを確認してください。※4
14	common.format.nodeinfo.import.duplicate.entry	装置情報のインポートを行う際、インポート対象の装置情報の IP アドレスが、ツールが保持している既存の装置情報の IP アドレスと同じ場合、インポート対象の装置情報を読み飛ばすか、既存の装置情報をインポート対象の装置情報で入れ替えるかを指定します。 ・SKIP…インポート対象の装置情報を読み飛ばす ・REPLACE…既存の装置情報をインポート対象の装置情報で入れ替える デフォルトは SKIP です。

※1…ディレクトリ名およびファイル名として利用できない文字を設定した場合にはログが出力されなくなりますのでご注意ください。

※2…設定ファイル上では、指定値に以下の文字を含む場合、その文字の前に¥（半

角円記号)を追加して指定してください。

[対象の文字]

¥ # ! = :

例: 値 C:¥Documents and Settings¥operator#1¥trace を指定する場合

→設定ファイルでの指定値 (下線部が追加指定分)

C¥:¥¥Documents and Settings¥¥operator¥#1¥¥trace

※3…AX-Networker's-Utility の他のツールを利用している場合、

共通のディレクトリ名およびファイル名を指定しないでください。

※4…本ツール用の TCP ポート番号が使用されているかどうかを確認するには

コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
netstat -an | findstr ":9478"
```

本ツール用の TCP ポート番号が使用されている場合には、以下のように表示されます。左から 2 番目の文字列の末尾が ":9478" になります。

TCP	127.0.0.1: <u>9478</u>	0.0.0.0:0	LISTENING
-----	------------------------	-----------	-----------

本ツール用の TCP ポート番号が使用されていない場合には、何も表示されません。

本ツールおよび他のアプリケーションで利用している TCP ポート番号を確認するには、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
netstat -an | findstr "TCP"
```

本ツールおよび他のアプリケーションで利用しているポート番号は、以下のように表示されます。左から 2 番目の文字列の : 文字の後ろが TCP ポート番号です。

TCP	0.0.0.0:135	0.0.0.0:0	LISTENING
TCP	0.0.0.0:445	0.0.0.0:0	LISTENING
TCP	127.0.0.1:9478	0.0.0.0:0	LISTENING
:	:	:	:

(以下省略)

本ツールで利用する TCP ポート番号をデフォルトから変更する場合には

上記の利用しているポート番号以外を指定してください。

5. トラブルシューティング

この章では、コンフィグレーション収集ツールのトラブルシューティングについて説明します。

[5.1 トラブル発生時の対応](#)

[5.2 メッセージ一覧](#)

[5.3 ログファイル](#)

5.1 トラブル発生時の対応

本ツールの操作中に発生するトラブルへの対応方法を解説します。

表 5-1 トラブル発生時の対応方法

項番	現象
	原因
	対応方法
1	ツールの操作により、[装置情報設定]画面や、[グループ情報設定]画面等の画面を開いたところ、入力項目のないグレーの画面が表示された。
	ツールの操作により画面を開いた際、まれに、入力項目のないグレーの画面が表示される場合があります。
	一度[×]ボタンで画面を閉じ、操作を再度行って画面を開き直してください。
2	コンフィグレーションファイルの収集（[実行]操作）を行ったところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了した。または、コンフィグレーションファイル収集の予約実行が実施されたところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示された。 メッセージ： ・「コンフィグレーション収集に失敗しました。（要因：接続失敗，エラーメッセージ：[エラーメッセージ]）」 ・「グループに対するコンフィグレーション収集に失敗しました。」
	以下が原因として考えられます。
	①ツールに登録した装置の IP アドレスが誤っている。
	②「 2.2 装置の設定を行う 」に記載の設定が行われていない。
	③装置側の設定、もしくは、コンフィグレーション収集サーバ（本ツールを起動しているサーバ）側のネットワーク設定に起因して、コンフィグレーション収集サーバと、装置間が、通信不可の状態になっている。
	④コンフィグレーション収集サーバ（本ツールを起動しているサーバ）と、装置間の回線が物理的に切断している。
	①または②に問題が無いかどうか、確認してください。
	①が原因の場合は、[装置]-[編集]操作により、装置の IP アドレスを修正したのち、[実行]操作を再度実行してください。
	②が原因の場合は、「 2.2 装置の設定を行う 」の内容に従って装置の設定を行った後、[実行]操作を再度実行してください。
	①、②に問題が無い場合は、③または④について確認し、コンフィグレーション収集サーバと、

	装置間を通信可能な状態に復旧してください。
3	コンフィグレーションの収集時にメッセージ「Subversion リポジトリへのコミットに失敗しました。」または、「Subversion の作業コピーディレクトリ操作に失敗しました。」が出力され、コンフィグレーション収集に失敗するようになった。 または、「Subversion のリポジトリの操作に失敗しました。」、「タグ付けに失敗しました。」のメッセージが出力されてタグ付け操作に失敗した。 以下が原因として考えられます。 ①「2.3 コンフィグレーション収集サーバの設定を行う」に記載の設定方法に従わず、ネットワークドライブ上に Subversion リポジトリを作成している。 ②Subversion リポジトリの存在するネットワークドライブが一度切断状態になった。 ③その他何らかの原因により、Subversion リポジトリの作業コピーディレクトリが Subversion 内で使用中のままになっている。 ④Subversion リポジトリが Subversion1.5.5 以外で作成されている。 原因①～③の場合、Subversion リポジトリの作業コピーが不正な状態になっていることが考えられるため、次の手順で復旧してください。 ①作業コピーディレクトリに移動後、svn cleanup コマンド実施してからコンフィグレーション収集を再実施 コマンドプロンプトを開き、作業コピーディレクトリに移動します。作業コピーディレクトリは以下のディレクトリになります。 [作業コピーディレクトリ] <TARGETDIR>%ConfigCollector%working-copy <TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ 例：C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility ここでは AX-Networker's-Utility をデフォルトインストール先へインストールした場合で説明します。コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。 AX-Networker's-Utility のインストール先ディレクトリが異なる場合には<u>下線部</u>を変更してください。 <pre>cd /d "C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility%ConfigCollector%working-copy"</pre> <pre>svn cleanup</pre> <pre>exit</pre> この後、コンフィグレーション収集またはタグ付け操作を実行します。再度エラーメッセージが出力された場合、②へ進んでください。 ②作業コピーディレクトリを削除した後、コンフィグレーション収集を再実施 コンフィグレーション収集の予約実行が行われていないことを確認し、エクスプローラから①の作業コピーディレクトリ自体を削除します。作業コピーディレクトリが削除できた

	ら、コンフィグレーション収集またはタグ付け操作を実行します。作業コピーディレクトリが使用中で削除できなかった場合は③へ進んでください。 ③再ログオンしてから作業コピーディレクトリを削除し、コンフィグレーション収集を再実施一度ログオフし、再度ログオンした後、エクスプローラから①の作業コピーディレクトリ自体を削除します。作業コピーディレクトリが削除できたら、コンフィグレーション収集またはタグ付け操作を実行します。 原因④の場合、「2.3 コンフィグレーション収集サーバの設定を行う (1) 収集したコンフィグレーションファイルを保存する Subversion のリポジトリを作成する」に記載の手順に従い、リポジトリを再作成してください。
4	即時実行または予約実行でコンフィグレーションを収集しようとしたが、メッセージ「処理中にメモリ不足エラーが発生しました。」が表示され、収集に失敗した。 装置から収集するコンフィグレーションのサイズが大き過ぎて、メモリ上に格納できなかったことが原因として考えられます。 「2.3 コンフィグレーション収集サーバの設定を行う (3) 利用可能な最大メモリサイズを変更する」に記載の手順に従い、本ツールが利用可能な最大メモリサイズを変更してください。
5	コンフィグレーションファイルの収集（[実行]操作）を行ったところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了した。または、コンフィグレーションファイル収集の予約実行が実施されたところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示された。 ・「コンフィグレーション収集に失敗しました。（要因：オペレーションに失敗、エラーメッセージ：ERR0300 : Fatal error. Cannot generate 'message ID' for connection.）」 ツールと装置間の通信時に利用するファイルの内容が不正な内容になっていることが原因として考えられます。 以下のファイルを削除して、実施した操作を再度行ってください。 <pre><TARGETDIR>%ConfigCollector%message.count <TARGETDIR>...AX-Networker's-Utility インストールディレクトリ デフォルトは C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility</pre>
6	コンフィグレーションの反映（[実行]操作）を行ったところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了した。 ・「コンフィグレーション反映に失敗しました。（要因：接続失敗、エラーメッセージ：java.net.ConnectException: Connection refused: connect）」 その後、コンフィグレーションの収集または反映（[実行]操作）を行っても、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了する。 ・「コンフィグレーション収集に失敗しました。（要因：接続失敗、エラーメッセージ：java.net.ConnectException: Connection refused: connect）」 ・「コンフィグレーション反映に失敗しました。（要因：接続失敗、エラーメッセージ：

	java.net.ConnectException: Connection refused: connect) 」 コンフィグレーションの反映で、netconf コマンドが定義されていないコンフィグレーションファイルを装置へ反映したと考えられます。 まず、「2.2 装置の設定を行う」の「(3) 対象装置でコンフィグレーション収集機能が利用できるように、netconf 機能を有効にします」を参照し、装置上で再度 netconf 機能を有効にします。 次に、装置へ反映したいコンフィグレーションファイルの内容をエディタなどで修正して、netconf コマンドの定義を追加します。その後、コンフィグレーションの反映を再度行ってください。
7	AX6700S/AX6600S/AX6300S/AX4600S に対してコンフィグレーションファイルの反映 ([コンフィグレーション反映]操作) を行ったところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了した。また、以下の実行確認画面が表示された。 ログ情報テーブルのメッセージ： ・「コンフィグレーションの反映に失敗しました。(ランニングコンフィグレーションの反映に失敗した可能性) (エラーメッセージ：[エラーメッセージ])」 実行確認画面のメッセージ： ・「コンフィグレーションの反映に失敗しました。装置の状態を確認してください。ランニングコンフィグレーションが変更されていない場合は、本画面で [いいえ] ボタンを押下して画面を閉じた後、再度コンフィグレーション反映メニューを実行してください。ランニングコンフィグレーションが変更されている場合は、本画面で [はい] ボタンを押下してください。スタートアップコンフィグレーションへの反映操作のみ実行します。」 反映するコンフィグレーションファイルの容量が大きい場合、反映に時間がかかり、タイムアウトすることがあります。 反映するコンフィグレーションの容量により、処理に時間がかかる場合がありますので、上記現象が発生した場合、処理が完了するまでしばらくお待ちください。なお、処理が完了したかどうかについては以下で判断できます。 装置に CLI でログインし、show config-lock-status コマンドを実行します。status:locked になっている場合、処理中ですので処理が完了するまでお待ちください。status:unlocked になっている場合、処理が完了しています。ランニングコンフィグレーションが変更されている場合は、実行確認画面で [はい] ボタンを押下してスタートアップコンフィグへの反映を実施してください。ランニングコンフィグレーションが変更されていない場合は反映するコンフィグレーションファイルの内容を確認および修正し、実行確認画面で [いいえ] ボタンを押下して再度コンフィグレーションの反映操作を実施してください。

5.2 メッセージ一覧

(1) コンフィグレーション収集ツールのダイアログ表示メッセージ一覧

コンフィグレーション収集ツールのダイアログ上で表示されるメッセージの一覧を次の表に示します。

表 5-2 ダイアログ表示メッセージ一覧

項番	メッセージ	補足
1	グループ名は 1～32 文字の文字列で入力してください。	グループ名の入力値が不正です。
2	そのグループ名を持つグループは既に存在します。	グループ名はツール上で一意にする必要があります。
3	IP アドレスは 10 進ドット記法の IPv4 アドレスで入力してください。	IP アドレスの入力値が不正です。
4	その IP アドレスを持つ装置は既に存在します。	IP アドレスはツール上で一意にする必要があります。
5	装置名は 0～64 文字の文字列で入力してください。	装置名の入力値が不正です。
6	その IP アドレスは装置に設定できないアドレスです。再度入力してください。	以下の IP アドレスは入力できません。 ・ 0.*.*.* ・ 127.*.*.* ・ 224～255.*.*.* *…*0～255
7	設定ファイルの保存に失敗しました。	設定ファイル「ConfigCollector.properties」の保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、設定ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていなか、あるいは、設定ファイルが読み取り専用属性になっていないかを確認してください。
8	本ツールは同時に 2 つ以上起動できません。またはポートが使用されています。終了します。	本ツールがすでに起動しているか、本ツールが使用する TCP ポート（デフォルトは 9478）が使用されています。 別のアプリケーションで TCP ポート 9478

		が利用されている場合は、そのアプリケーションを終了させるか、「 4.2 設定項目一覧 」記載の <code>common.appinstcheck.port</code> の値を変更して本ツールを起動させてください。
9	本ツールの起動チェックに失敗しました。終了します。	本ツールの2重起動チェックに失敗しました。本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
10	コンフィグレーション収集実行中です。コンフィグレーション収集終了後に、操作を再実施してください。	コンフィグレーション収集のスケジュール実行中に、グループや装置、スケジュール情報の追加/編集/削除操作を行うと、本メッセージが表示されます。
11	装置情報ファイルの上書き保存に失敗しました。	装置情報ファイルの上書き保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、装置情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていないか、あるいは、装置情報ファイルが読み取り専用属性になっていないかを確認してください。
12	装置情報ファイルの保存に失敗しました。	装置情報ファイルの保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、装置情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていないか、あるいは、装置情報ファイルが読み取り専用属性になっていないか、確認してください。
13	スケジュール情報ファイルの上書き保存に失敗しました。	スケジュール情報ファイルの上書き保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、スケジュール情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていないか、あるいは、スケジュール情報ファイルが読み取り専用属性になっていないか、確認してください。
14	スケジュール情報ファイルの保存に失敗しました。	スケジュール情報ファイルの保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、スケジュール情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていな

		いか、あるいは、スケジュール情報ファイルが読み取り専用属性になっていないか、確認してください。
15	コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報の上書き保存に失敗しました。	コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報ファイルの上書き保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていないか、あるいは、コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報ファイルが読み取り専用属性になっていないか、確認してください。
16	コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報のファイルの保存に失敗しました。	コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報ファイルの保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていないか、あるいは、コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報ファイルが読み取り専用属性になっていないか、確認してください。
17	装置情報ファイル名に「_schedule」を含めることはできません。 他のファイル名を指定してください。	装置情報ファイル名に「_schedule」を含めることはできません。
18	コンフィグレーションファイルの格納場所に Subversion リポジトリを選択している場合は、グループ名に次の文字は使えません。 ¥/:*?"<>	コンフィグレーションの格納場所として Subversion リポジトリを選択している場合、以下の文字は使用しないでください。 ¥/:*?"<>
19	曜日を少なくとも 1 つ選択してください。	[スケジュール設定]画面で、「毎週」のスケジュールを選択しているが「曜日」を 1 つも選択していない状態で、[OK]ボタンを押下した場合に、本メッセージが表示されます。
20	指定のグループのスケジュールは既に登録されているため、登録できません。	1 つのグループに対して複数のスケジュールを登録することはできません。

21	指定されたディレクトリは有効なディレクトリではありません。再度選択してください。	[ツール設定]画面のコンフィグレーションファイル格納先ディレクトリ欄に、ファイルやショートカット等、ディレクトリ以外を指定して[OK]ボタンを押下した場合に、本メッセージが表示されます。
22	ディレクトリの記述に使用できない文字が含まれます。再度入力してください。	[ツール設定]画面で、コンフィグレーションファイル格納先ディレクトリに、使用不可文字「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「 」のいずれかが含まれている状態で、[OK]、または、[適用]ボタンを押下した場合に本メッセージが表示されます。
23	ディレクトリが記述されていません。再度入力してください。	[ツール設定]画面で、コンフィグレーションファイル格納先ディレクトリが未入力状態で、[OK]、または、[適用]ボタンを押下した場合に本メッセージが表示されます。
24	指定されたディレクトリは存在しません。作成しますか？	[ツール設定]画面で、指定したコンフィグレーションファイル格納先ディレクトリが存在しない状態で[OK]または[適用]ボタンを押下した際に本メッセージが表示されます。
25	ディレクトリの作成に失敗しました。再度入力してください。	[ツール設定]画面で指定したコンフィグレーションファイル格納先ディレクトリの作成に失敗した場合に本メッセージが表示されます。
26	URL が不正です。再度入力してください。	[ツール設定]画面で指定したコンフィグレーションファイル格納先ディレクトリの作成に失敗した場合に本メッセージが表示されます。[OK]、または、[適用]ボタンを押下した場合に本メッセージが表示されます。
27	グループ名に以下の文字を含むグループが存在する場合、コンフィグレーションファイルの格納場所を Subversion リポジトリに変更できません。 ¥/:*?"<>	グループ名に左記の文字を含むグループが存在する状況で、[ツール設定]画面でコンフィグレーション格納場所を Subversion リポジトリの URL に変更した場合に本メッセージが表示されます。

		以下の文字を使用しないようにグループ名を修正してからコンフィグレーションの格納場所を変更してください。 ¥/:*?"<>
28	装置情報が保存されていません。保存しますか？	ツール上の情報が装置情報ファイルに未保存の状態で、ツールを終了しようとした場合に表示されるメッセージです。
29	グループ [グループ名] を削除しますか？	グループの削除を行う際に表示される確認メッセージです。
30	グループ [グループ名] を削除します。 グループ [グループ名] に設定されている スケジュール情報も合わせて削除します。よろしいですか？	スケジュールが登録されているグループを削除する際に表示される確認メッセージです。
31	装置 [IP アドレス(装置名)] を削除しますか？	装置の削除を行う際に表示される確認メッセージです。
32	選択されたスケジュールを削除しますか？	スケジュールの削除を行う際に表示される確認メッセージです。
33	グループ [グループ名] に対して、コンフィグレーション収集を行いますか？	コンフィグレーションファイルの収集を行う際に表示される確認メッセージです。
34	グループ内に装置情報が存在しません。	空のグループに対してコンフィグレーションファイルの収集を行う際に表示されるエラーメッセージです。
35	タグ名に使用できない文字が含まれます。再度入力してください。 ¥/:*?"<>	タグ付けを行う際に表示されるエラーメッセージです。以下の文字を使用しないようにタグ名を修正してから、タグ付けを行ってください。
36	タグ名は 1～32 文字の文字列で指定してください。	タグ付けを行う際に表示されるエラーメッセージです。タグ名を 1～32 文字の文字列に修正してから、タグ付けを行ってください。
37	コメントは 1024 文字以内の文字列で指定してください。	タグ付けを行う際に表示されるエラーメッセージです。コメントを 1024 文字以内の文字列に修正してから、タグ付けを行ってください。
38	Subversion のリポジトリ内に、指定し	タグ付けを行う際に表示されるエラーメ

	たタグ名 [タグ名] と同名のディレクトリまたはファイルが既に存在します。異なるタグ名を指定して操作を再実施してください。	ッセージです。既存のタグ名と異なるタグ名を指定してから、タグ付けを行ってください。
39	半角空白のみのタグ名は指定できません。再度入力してください。	タグ付けを行う際に表示されるエラーメッセージです。タグ名に半角空白以外の文字列を指定してから、タグ付けを行ってください。
40	反映するコンフィグレーションのファイルパスを入力してください。	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で、反映するコンフィグレーションファイルのパス名が未入力のまま〔OK〕または〔比較...〕 ボタンを押下した際に本メッセージが表示されます。
41	反映するコンフィグレーションのファイルパスに使用できない文字が含まれます。再度入力してください。	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で、反映するコンフィグレーションファイルのパス名に使用不可文字「*」,「?」,「"」,「<」,「>」,「 」のいずれかが含まれている状態で〔OK〕または〔比較...〕 ボタンを押下した場合に本メッセージが表示されます。
42	反映するコンフィグレーションのファイルが見つかりません。再度入力してください。	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で〔OK〕または〔比較...〕 ボタンを押下した際に、反映するコンフィグレーションファイルに指定したファイルが見つからない場合、本メッセージが表示されます。
43	反映するコンフィグレーションのファイルが不正です。再度入力してください。	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で〔OK〕または〔比較...〕 ボタンを押下した際に、反映するコンフィグレーションファイルにディレクトリが指定されている場合、本メッセージが表示されます。
44	反映するコンフィグレーションのファイルを読み込めません。対象ファイルが参照可能か確認してください。	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で〔OK〕 ボタンを押下した際に、反映するコンフィグレーションファイルを読み込めなかった場合に表示されます。
45	反映するコンフィグレーションのファイルは本ツールで収集したファイルで	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で〔OK〕 ボタンを押下した際に、反映するコ

	はない可能性があります。 コンフィグレーションの反映を実行しますか？ ※本操作は中止することができません。また一時的に通信が停止します。	ンフィグレーションファイルがツールで収集したファイルではない場合に表示される警告メッセージです。
46	反映するコンフィグレーションのファイルは本ツールで収集後、内容が変更されている可能性があります。 コンフィグレーションの反映を実行しますか？ ※本操作は中止することができません。また一時的に通信が停止します。	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で〔OK〕ボタンを押下した際に、反映するコンフィグレーションファイルがツールで収集後、変更されていた場合に表示される警告メッセージです。
47	コンフィグレーションの反映を実行しますか？ ※本操作は中止することができません。また一時的に通信が停止します。	〔コンフィグレーション反映設定〕画面で〔OK〕ボタンを押下した際に表示される実行確認メッセージです。
48	比較するコンフィグレーションのファイルパスを入力してください。	〔コンフィグレーション比較〕画面で、比較するコンフィグレーションファイルのパス名が未入力のまま〔OK〕ボタンを押下した場合に表示されます。
49	比較するコンフィグレーションのファイルパスに使用できない文字が含まれます。再度入力してください。	〔コンフィグレーション比較〕画面で、比較するコンフィグレーションファイルのパス名に使用不可文字「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「 」のいずれかが含まれている状態で、〔OK〕ボタンを押下した場合に表示されます。
50	比較するコンフィグレーションのファイルが見つかりません。再度入力してください。	〔コンフィグレーション比較〕画面で〔OK〕ボタンを押下した際に、比較するコンフィグレーションファイルに指定したファイルが見つからない場合、本メッセージが表示されます。
51	比較するコンフィグレーションのファイルが不正です。再度入力してください。	〔コンフィグレーション比較〕画面で〔OK〕ボタンを押下した際に、比較するコンフィグレーションファイルにディレクトリが指定されている場合、本メッセージが表示されます。

52	比較するコンフィグレーションのファイルが見つかりません。コンフィグレーション収集を実行してから再度実行してください。または比較するコンフィグレーションを選択してください。	〔コンフィグレーション比較〕画面で、〔最後に取得したコンフィグレーションと比較〕のラジオボタンをチェックした状態で〔OK〕ボタンを押下した際に、対象装置の収集済みのコンフィグレーションファイルが存在しない場合に表示されます。 本画面が表示された場合は、対象装置に対してコンフィグレーション収集を実行するか、比較するコンフィグレーションを指定してから実行してください。
53	反映するコンフィグレーションのファイルが見つかりません。〔キャンセル〕ボタンを押下して本画面を閉じた後、〔コンフィグレーション反映設定〕画面で再度コンフィグレーションファイルを指定してください。	〔コンフィグレーション比較〕画面で〔OK〕ボタンを押下した際に、〔コンフィグレーション反映設定〕画面で入力したコンフィグレーションファイルが見つからない場合に表示されます。 本メッセージが表示された場合には、一度〔コンフィグレーション比較〕画面を閉じた後、〔コンフィグレーション反映設定〕画面で再度コンフィグレーションファイルを指定してください。
54	差分表示用アプリケーションの起動に失敗しました。下記を実施してください。 (1)差分表示用アプリケーションがインストールされているかどうか確認し、インストールされていない場合はインストールを行ってください。 (2) 設定ファイルの"config.diff.command"の記述が正しいかどうか確認し、誤っている場合はコンフィグレーション収集ツールを終了してから記述を修正してください。 (3)コンフィグレーション収集ツールを起動し、操作を再度実行してください。	〔コンフィグレーション比較〕画面で〔OK〕ボタンを押下した際に、差分表示用アプリケーションの起動に失敗した場合に表示されます。本メッセージが表示された場合には、差分表示用アプリケーションの起動に失敗しています。メッセージに従ってインストール状況を確認してください。
55	装置情報ファイル名に「_configurationhash」を含めることは	装置情報ファイル保存時にファイル名に「_configurationhash」が含まれる場合に出

	できません。他のファイル名を指定してください。	力されます。他のファイル名を指定してください。
56	コンフィグレーションの反映に失敗しました。装置の状態を確認してください。 ランニングコンフィグレーションが変更されていない場合は、本画面で「いいえ」ボタンを押下して画面を閉じた後、再度コンフィグレーション反映メニューを実行してください。ランニングコンフィグレーションが変更されている場合は、本画面で「はい」ボタンを押下してください。スタートアップコンフィグレーションへの反映操作のみ実行します。	「コンフィグレーション反映設定」画面で「OK」ボタンを押下した際に、コンフィグレーションの反映に失敗した場合に表示されます。装置上のランニングコンフィグレーションおよびスタートアップコンフィグレーションの状態を確認し、画面の指示に従い、コンフィグレーションの反映を完了させてください。

(2) コンフィグレーション収集ツールのログ情報テーブルに表示されるメッセージ一覧

コンフィグレーション収集ツールのログ情報テーブル上に表示されるメッセージの一覧を次の表に示します。

表 5-3 ログ情報テーブル表示メッセージ一覧

項番	メッセージ	内容
1	装置の移動に失敗しました。	装置一覧ツリー上のドラッグ&ドロップ操作により、装置をあるグループから他のグループに移動した際、エラーが発生しました。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
2	設定ファイルの保存に失敗しました。	設定ファイル「ConfigCollector.properties」の保存に失敗しました。設定ファイルが外部のエディタで開かれており、ロックがかかっている状態か、ファイルが読み取り専

		用属性になっている可能性があります。 設定ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
3	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(ファイルの内容が不正です。ファイル名=[ファイル名])	ファイルの内容が不正です。ファイルの内容を確認してください。
4	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(デリミタが不正です。デリミタ=[デリミタ])	ファイルの区切り文字が不正です。ファイルの内容を確認してください。
5	ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(ファイル名=[ファイル名], 行番号=[行番号], [項目名]=[値])	ファイルの内容が不正です。該当の項目の値を修正した後、ファイルの読み込みを行ってください。
6	ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(ファイル名=[ファイル名], 行番号=[行番号], [項目名]=[値])	ファイルで[項目名]で示される項目の値の重複を検知しました。[項目名]の[値]を確認および修正した後、ファイルの読み込みを行ってください。
7	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(ファイル[ファイル名]が見つかりません。)	ファイルを読み込んだ際、指定したファイルが見つからなかった場合に本メッセージが表示されます。 再度読み込むファイルの選択を行ってください。
8	ファイル読み込み時に登録済みの装置を検出しました。読み込みをスキップします。(IP アドレス=[IP アドレス], 装置名=[装置名])	インポートファイルを読み込んだ際、既に登録済みの装置と同一の IP アドレスを持つエントリを発見しました。登録済み装置の情報を優先し、インポートファイルの内容を読み飛ばします。
9	ファイル読み込み時に登録済みの装置を検出しました。登録済み装置を更新します。(IP アドレス=[IP アドレス], 装置名=[装置名])	インポートファイルを読み込んだ際、既に登録済みの装置と同一の IP アドレスを持つエントリを発見しました。登録済み装置の情報を上書きします。
10	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(毎週繰り返しのスケジュールの曜日が指定されていません。ファイル名=[ファイル名], 行番号=[行番	[ファイル]-[開く]操作で装置情報ファイルを読み込んだ際、併せて行われるスケジュール情報ファイル読み込み時に、曜日の指定が1つもない「毎週繰り返し」のスケジ

	号)	ユーール情報を検出しました。 スケジュール情報ファイルの該当行を修正した後、[ファイル]-[開く]操作で再度装置情報ファイルの選択・読み込みを行ってください。
11	処理中にエラーが発生しました。前提ソフトウェア、または、インストール時に展開された JAR ファイルが所定のディレクトリに存在しない可能性があります。	AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド（インストール編）および本ユーザーズガイドを参照し、前提ソフトウェアのファイルおよびインストール時に展開されたファイルがインストール先ディレクトリに存在するかどうかを確認してください。ファイルが存在しない場合には、再度インストール作業を行う必要があります。
12	処理中にメモリ不足エラーが発生しました。	処理中にメモリが不足しました。本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照し、ツールへ割り当てるメモリの量を拡大してください。それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。
13	処理中にエラーが発生しました。	処理中に予期しないエラーが発生しました。本メッセージが表示された場合は、販売元に問い合わせてください。
14	装置を移動しました。	装置一覧ツリー上のドラッグ&ドロップ操作により、装置をあるグループから他のグループに移動した際に表示される操作イベントログです。
15	ファイルの読み込みに失敗しました。	[ファイル]-[開く]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。 「ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(エラーメッセージ)」 「ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(エラーメッセージ)」

		「ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(エラーメッセージ)」 上記メッセージが出力されていない場合は以下の対処を行ってください。指定した装置情報ファイルまたはアカウント情報ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。
16	ファイルの上書き保存に失敗しました。	[ファイル]-[上書き保存]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。 「装置情報ファイルの保存に失敗しました。」 「スケジュール情報ファイルの保存に失敗しました。」
17	ファイルの保存に失敗しました。	[ファイル]-[名前を付けて保存]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。 「装置情報ファイルの保存に失敗しました。」 「スケジュール情報ファイルの保存に失敗しました。」 「コンフィグレーションファイルのハッシュ値情報のファイルの保存に失敗しました。」
18	アプリケーションが正常終了しませんでした。	本ツール終了時に、ツールの設定情報や装置情報をファイルに保存できなかった場合に、本メッセージが表示されます。本メッセージが出力された場合は、ツールの設定ファイルや装置情報ファイルが、読み取り専用になっている可能性があります。 設定ファイルや装置情報ファイルを外部

		のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
19	装置情報のクリアに失敗しました。	[ファイル]-[新規作成]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
20	装置情報のインポートに失敗しました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。 「ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(エラーメッセージ)」 「ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(エラーメッセージ)」 「ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(エラーメッセージ)」 上記メッセージが出力されていない場合は以下の対処を行ってください。 指定したファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。
21	装置情報のエクスポートに失敗しました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 エクスポート先のファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。 読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
22	グループの追加に失敗しました。	[グループ]-[追加]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表

		示される場合は、販売元に問い合わせてください。
23	グループ情報の更新に失敗しました。	[グループ]-[編集]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
24	グループの削除に失敗しました。	[グループ]-[削除]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
25	装置の追加に失敗しました。	[装置]-[追加]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
26	装置情報の更新に失敗しました。	[装置]-[編集]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
27	装置の削除に失敗しました。	[装置]-[削除]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
28	グループ [グループ名] に対するコンフィグレーション収集に失敗しました。	[実行]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 グループ内の装置が1台でも失敗した場合に出力されます。

		本メッセージとともに出力される以下のメッセージの内容を確認してください。 「コンフィグレーション収集に失敗しました。」
29	タグ付けに失敗しました。	タグ付けに失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。 それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。
30	コンフィグレーション反映に失敗しました。	コンフィグレーションファイル反映に失敗した際に出力されます。 本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。
31	ツール設定の更新に失敗しました。	ツール設定の更新操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが出力された場合は、設定ファイルが外部のエディタで開かれており、ロックがかかっている状態か、ファイルが読み取り専用属性になっている可能性があります。 設定ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
32	スケジュールの追加に失敗しました。	[スケジュール]-[追加]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
33	スケジュール情報の更新に失敗しました。	[スケジュール]-[編集]操作に失敗した場合

	た。	に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
34	スケジュールの削除に失敗しました。	[スケジュール]-[削除]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
35	コンフィグレーション収集に失敗しました。	コンフィグレーションファイル収集に失敗した際に出力されます。本メッセージは装置単位に出力されます。 本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。 それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。
36	Subversion の作業コピーディレクトリ操作に失敗しました。	収集したコンフィグレーションファイルを Subversion のリポジトリに保存する際に、Subversion のリポジトリの作業コピーディレクトリ操作（ディレクトリ作成、ファイル追加/削除/更新）に失敗しました。 本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。 それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。
37	Subversion リポジトリへのコミットに失敗しました。	収集したコンフィグレーションファイルを Subversion のリポジトリに保存する際にコミット操作に失敗しました。 本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。 それでもエラーが解消されない場合には

		販売元に問い合わせてください。
38	Subversion のリポジトリの操作に失敗しました。	タグ付けなど、Subversion のリポジトリの操作に失敗しました。 本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。 それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。
39	装置情報ファイルの保存に失敗しました。	[ファイル]-[保存]操作や、[ファイル]-[上書き保存]操作を行うと、「装置情報ファイル」と「スケジュール情報ファイル」の2つのファイルに、それぞれこの順で、ツール上の情報が保存されますが、最初の「装置情報ファイル」への装置情報の保存に失敗した場合に、本メッセージが表示されます。 (この場合、「スケジュール情報ファイル」へのスケジュール情報の保存は行われません。) 保存先の装置情報ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。 読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
40	スケジュール情報ファイルの保存に失敗しました。	[ファイル]-[保存]操作や、[ファイル]-[上書き保存]操作を行うと、「装置情報ファイル」と「スケジュール情報ファイル」の2つのファイルに、それぞれこの順で、ツール上の情報が保存されますが、2番目の「スケジュール情報ファイル」へのスケジュール情報の保存に失敗した場合に、本メッセージが表示されます。 保存先のスケジュール情報ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
41	コンフィグレーション格納ディレクトリ作成に失敗しました。	コンフィグレーションファイル格納ディレクトリ作成に失敗した場合に表示され

		ます。 本メッセージが表示された場合、コンフィグレーション格納ディレクトリを別のディレクトリに変更して、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
42	グループ [グループ名] に装置が存在しないため、グループ [グループ名] のスケジュール実行をスキップしました。	装置が存在しないグループに対するスケジュール実行は行われません。
43	アプリケーションが起動しました。	アプリケーション起動時に必ず出力されます。
44	ファイルの読み込みが正常終了しました。	[ファイル]-[開く]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
45	ファイル読み込みをキャンセルしました。	[ファイル]-[開く]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
46	ツール上の情報をファイルに上書き保存しました。	[ファイル]-[上書き保存]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
47	ツール上の情報をファイルに保存しました。	[ファイル]-[名前を付けて保存]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
48	ファイルの保存をキャンセルしました。	[ファイル]-[名前を付けて保存]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
49	アプリケーションを終了しました。	[ファイル]-[終了]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
50	アプリケーションの終了をキャンセルしました。	[ファイル]-[終了]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
51	装置情報をクリアしました。	[ファイル]-[新規作成]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
52	装置情報のクリアをキャンセルしました。	[ファイル]-[新規作成]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
53	装置情報をインポートしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート]操作が正常終了した場合に表示される

		操作イベントログです。
54	装置情報のインポートをキャンセルしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
55	装置情報をエクスポートしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
56	装置情報のエクスポートをキャンセルしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
57	グループを追加しました。	[グループ]-[追加]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
58	グループの追加をキャンセルしました。	[グループ]-[追加]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
59	グループ情報を更新しました。	[グループ]-[編集]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
60	グループ情報の更新をキャンセルしました。	[グループ]-[編集]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
61	グループを削除しました。	[グループ]-[削除]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
62	グループの削除をキャンセルしました。	[グループ]-[削除]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
63	装置を追加しました。	[装置]-[追加]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
64	装置の追加をキャンセルしました。	[装置]-[追加]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
65	装置情報を更新しました。	[装置]-[編集]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
66	装置情報の更新をキャンセルしました。	[装置]-[編集]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
67	装置を削除しました。	[装置]-[削除]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
68	装置の削除をキャンセルしました。	[装置]-[削除]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
69	グループ [グループ名]に対するコンフ	[実行]操作開始時に表示される操作イベン

	ィグレーション収集を開始します。	トログです。
70	グループ [グループ名]に対するコンフィグレーション収集が正常終了しました。	[実行]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
71	グループ [グループ名]に対するコンフィグレーション収集をキャンセルしました。	[実行]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
72	タグ付けを開始します。	[タグ付け]操作開始時に表示される操作イベントログです。
73	タグ付けが正常終了しました。	[タグ付け]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
74	タグ付けをキャンセルしました。	[タグ付け]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
75	コンフィグレーション反映を開始します。	装置に対してコンフィグレーションファイル反映を開始する際に表示される操作イベントログです。
76	コンフィグレーション反映が正常終了しました。	装置に対するコンフィグレーションファイル反映が正常終了した際に表示される操作イベントログです。
77	コンフィグレーション反映をキャンセルしました。	装置に対するコンフィグレーションファイル反映をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
78	ツール設定を更新しました。	ツール設定の更新操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
79	ツール設定の更新をキャンセルしました。	ツール設定の更新操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
80	スケジュールを追加しました。	[スケジュール]-[追加]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
81	スケジュールの追加をキャンセルしました。	[スケジュール]-[追加]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
82	スケジュール情報を更新しました。	[スケジュール]-[編集]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
83	スケジュール情報の更新をキャンセルしました。	[スケジュール]-[編集]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログで

		す。
84	スケジュールを削除しました。	[スケジュール]-[削除]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
85	スケジュールの削除をキャンセルしました。	[スケジュール]-[削除]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
86	コンフィグレーション収集を開始します。	装置に対してコンフィグレーションファイル収集を開始する際に出力されます。本メッセージは装置単位に出力されます。
87	コンフィグレーション収集が正常終了しました。	装置に対するコンフィグレーションファイル収集が正常終了した際に出力されます。本メッセージは装置単位に出力されます。
88	コンフィグレーション収集をキャンセルしました。	実行中画面の[中止]ボタンを押下し、装置に対するコンフィグレーションファイル収集をキャンセルした際に出力されます。本メッセージは装置単位に出力されます。
89	コンフィグレーションが変更されていないため保存をスキップしました。	本 ツ ー ル の 設 定 フ ェ イ ル で , 「 config.difference.detection 」 の 設 定 値 を 「 ON 」 に 設 定 し て い る 場 合 は , コ ン フ ィ グ レ ー シ ョ ン 収 集 時 に , 前 回 収 集 し た コ ン フ ィ グ レ ー シ ョ ン と 比 較 し て 内 容 が 変 更 さ れ て い な け れ ば , 保 存 を ス キ ッ プ し ま す 。
90	収集したコンフィグレーションをSubversionのリポジトリにコミットしました。(リビジョン番号=[リビジョン番号])	収集したコンフィグレーションファイルをSubversionのリポジトリにコミットした際に表示されるイベントログです。
91	収集したコンフィグレーションは前回収集したコンフィグレーションと差分がないため、Subversionのリポジトリへのコミットをスキップしました。	コンフィグレーション収集時に前回収集したコンフィグレーションと比較して内容が更新されていない場合は、Subversionのリポジトリへのコミットをスキップします。
92	ログのファイル出力に失敗しました。	動作ログのファイルへの出力に失敗した場合に出力されるエラーメッセージです。動作ログの格納ディレクトリの作成に失敗したか、動作ログファイルの書き込みに

		失敗しました。 動作ログファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。動作ログファイルおよび出力先ディレクトリが読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。 動作ログファイルおよび出力先ディレクトリについては設定ファイル内容を参照ください。
--	--	---

5.3 ログファイル

コンフィグレーション収集ツールでは以下2種類のログファイルが障害解析用に出
力されます。それぞれのログファイルに格納される情報および格納先ディレクトリ
を説明します。

- ・動作ログファイル

ログ情報テーブルに表示された内容すべてを記録したファイルです。デフォルトで
は、以下のディレクトリに格納されています。

<TARGETDIR>%ConfigCollector%\table-log

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

- ・デバッグログファイル

コンフィグレーション収集ツールの動作内容や、エラー情報を記録した障害解析用
のファイルです。デフォルトでは、以下のディレクトリに格納されています。

<TARGETDIR>%ConfigCollector%\trace-log

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility